2006年度

シラバス
免許課程

ー教職・司書・司書教諭ー

獨協大学

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。
学生諸君は、シラバスをよく読み、計画的な履修登録をしてください。
科目の授業内容は、目次で検索してください。目次は対象者別（入学年度により異なる）の、カリキュラム順に掲載されています。
曜日時限も記載されていますが、変更等があるので受講の際は、教務課で確認をしてください。
（ホームページでも確認することができます。）
履修開始学年は、目次の「学年」欄に、「学期」は(　)内に記載されています。

① 適用年度	② 科目名	③ 担当者
④ 講義目的　講義概要 【春学期】	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
⑥ テキスト　参考文献	⑦ 評価方法	

＊上段は、春学期科目です。

①②　入学年度により科目が異なります。
※該当科目がない場合は「＊＊＊」で表示されます。
③　担当教員氏名
④　授業の目的や講義全体の説明、
学生への要望が記載してあります。
⑤　学期の授業計画についての欄です。
各週ごとに講義するテーマが
記載してあります。
⑥　授業で使用するテキストや
参考となる文献が記載してあります。
⑦　半期完結科目は春学期終了時に
および秋学期終了時に成績評価が出ます。

① 適用年度	② 科目名	③ 担当者
④ 講義目的　講義概要 【秋学期】	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
⑥ テキスト　参考文献	⑦ 評価方法	

＊下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

※免許の履修に際しては、「履修の手引き(免許課程)」および「2006年度時間割表」をご参照ください。

シラバス目次

（2003年度以降入学者適用科目）

【教職課程】　－－ 教職に関する科目 －－

科目名	学期	時間割コード	曜日	時限	担当者	単位	学年（学期）	備考	ページ
教職論	春	06900	金	4	小島　優生	2	1（1）		1
	春	06902	木	4	下地　秀樹				2
	秋	06903	木	4					
	秋	06901	月	3	吉田　武大				3
教育原論	春	06904	火	1	小島　優生	2	1（1）		4
	秋	06905	金	4					
	春	06906	木	3	下地　秀樹				5
	秋	06907	木	3					
教職心理学	春	06908	木	1	田口　雅徳	2	1（1）		6
	秋	06909	木	1					
	秋	06911	水	1	森川　正大				7
	春	06910	火	4	横田　雅弘				8
教育制度	春	06915	金	5	小島　優生	2	2（3）		9
	春	06912	月	3	吉田　武大				10
	春	06914	月	4					
	秋	06913	月	4					
教育課程論	春	06916	金	4	林　尚示	2	2（3）		11
	春	06917	金	3					
	春	06918	水	2	安井　一郎				12
	秋	06919	月	3					
ドイツ語科教科教育法Ⅰ	春	06920	月	5	本多　喜三郎	2	3（5）		13
ドイツ語科教科教育法Ⅱ	秋	06921	月	5		2	3（5）		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06923	火	5	浅岡　千利世	2	3（5）	受講者多数の場合は調整	14
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06928	火	5		2	3（5）		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06924	金	1	清水　由理子	2	3（5）	〃	15
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06929	金	1		2	3（5）		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06925	水	1	J．J．ダゲン	2	3（5）	〃	16
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06930	水	1		2	3（5）		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06926	火	5	T．マーフィー	2	3（5）	〃	17
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06931	火	5		2	3（5）		
フランス語科教科教育法Ⅰ	春	06932	木	1	中村　公子	2	3（5）		18
フランス語科教科教育法Ⅱ	秋	06933	木	1		2	3（5）		
社会科教育法Ⅰ	秋	06934	火	2	秋本　弘章	2	2（3）		19
社会科教育法Ⅱ	春	06935	火	1		2	3（5）		20
社会科教育法Ⅲ	秋	06936	火	1		2	3（5）		
地理・歴史科教育法Ⅰ	秋	06939	金	1	古川　堅治	2	2（3）		21
地理・歴史科教育法Ⅱ	秋	06940	木	1	秋本　弘章	2	3（5）		22
地理・歴史科教育法Ⅲ	春	06941	月	5	會田　康範	2	3（5）		23
公民科教育法Ⅰ	春	06937	金	4	小川　輝之	2	3（5）		24
公民科教育法Ⅱ	秋	06938	金	4		2	3（5）		
情報科教育法Ⅰ	春	06942	木	2	秋本　弘章	2	3（5）		25
情報科教育法Ⅱ	秋	06943	木	2		2	3（5）		
教科教育法特論Ⅰ	春	09110	火	3	安井　一郎	2	3（5）		26
	秋	06944	月	5					
教科教育法特論Ⅱ	春	09111	月	3	清水　由理子	2	3（5）		27
	秋	06945	月	3					
道徳教育の研究	春	06947	月	1	小島　優生	2	2（3）		28
	春	06949	火	4	安井　一郎				29
	秋	06948	火	2					
特別活動	春	06952	金	2	小川　輝之	2	2（3）		30
	春	06953	金	3					
	秋	06950	月	4	安井　一郎				31

シラバス目次

（2003年度以降入学者適用科目）

【教職課程】　－－　教職に関する科目　－－

科目名	学期	時間割コード	曜日	時限	担当者	単位	学年（学期）	備考	ページ
教育方法学	春	06956	土	1	町田　喜義	2	2（3）		32
	秋	06957	土	1					
	春	06954	月	3	安井　一郎				33
	春	06955	火	2					
生徒指導法	春	06961	水	3	小川　輝之	2	2（3）		34
	秋	06960	金	3					
	春	06959	月	2	小島　優生				35
	春	06958	金	2	林　尚示				36
学校カウンセリング	春	06963	木	4	鈴木　乙史	2	2（3）		37
	秋	06964	木	4					
	春	06962	木	2	瀧本　孝雄				38
	春	06965	水	1	森川　正大				39
総合演習	春	06972	木	1	秋本　弘章	2	3（5）	受講者多数の場合は抽選	40
	春	06973	火	2					
	春	06966	水	2	小島　優生			〃	41
	秋	06967	火	1					
	春	06971	木	5	渋谷　英章			〃	42
	秋	06970	木	4					
	春	06968	月	5	安井　一郎			〃	43
	秋	06969	水	1					
教育実習論Ⅰ（事前指導）	秋	08754	水	3	小川　輝之	2	3（5）		44
	秋	08753	金	2					
	秋	08749	月	1	小島　優生				45
	秋	08751	水	2					
	春	08750	月	4	安井　一郎				46
	秋	08752	火	4					
教育実習論Ⅱ（事後指導）	秋	06981	月	2	小島　優生	2	4（8）		47
	秋	09113	金	5					
	秋	06980	火	3	安井　一郎				48
	秋	09112	水	2					
介護ボランティアの理論と実践	秋	06997	水	1	小川　孔美	2	2（3）		49
	秋	09109	水	2					
教育実習Ⅰ	集中	07608	－	－	――――――――	2	4（7）	※	――
教育実習Ⅱ	集中	07609	－	－	――――――――	2			――

※2006年度教育実習予定者は必ず登録すること

シラバス目次

【教職課程】 ―― 教科に関する科目 ――

科目名	学期	時間割コード	曜日	時限	担当者	単位	学年(学期)	備考	ページ
日本史概説Ⅰ	春	06982	月	4	會田　康範	2	1(1)		50
日本史概説Ⅱ	秋	06983	月	4	會田　康範	2	1(1)		
外国史概説Ⅰ	秋	06984	金	1	兼田　信一郎	2	1(1)		51
外国史概説Ⅱ	春	06985	金	1	古川　堅治	2	1(1)		52
地理学概説Ⅰ	春	06986	月	2	秋本　弘章	2	1(1)		53
地理学概説Ⅱ	秋	06987	月	2	秋本　弘章	2	1(1)		
地誌学概説Ⅰ	春	06988	水	1	秋本　弘章	2	1(1)		54
地誌学概説Ⅱ	秋	06989	水	1	秋本　弘章	2	1(1)		
法律学概説Ⅰ	春	07023	木	3	内山　良雄	2	2(3)	経・法は履修不可	55
法律学概説Ⅱ	秋	07024	木	3	内山　良雄	2	2(3)	〃	
政治学概説Ⅰ	春	07025	木	1	杉田　孝夫	2	2(3)	経・法は履修不可	56
政治学概説Ⅱ	秋	07026	木	1	杉田　孝夫	2	2(3)	〃	
社会学概説Ⅰ	春	07027	火	3	圓岡　偉男	2	2(3)		57
社会学概説Ⅱ	秋	07028	火	3	圓岡　偉男	2	2(3)		
哲学概説Ⅰ	春	07029	火	5	河口　伸	2	2(3)		58
哲学概説Ⅱ	秋	07030	火	5	河口　伸	2	2(3)		
倫理学概説Ⅰ	春	07031	火	3	松丸　壽雄	2	2(3)		59
倫理学概説Ⅱ	秋	07032	火	3	松丸　壽雄	2	2(3)		
宗教学概説Ⅰ	春	07033	木	5	河口　伸	2	2(3)		60
宗教学概説Ⅱ	秋	07034	木	5	河口　伸	2	2(3)		
心理学概説Ⅰ	春	07104	木	3	田口　雅徳	2	2(3)		61
心理学概説Ⅱ	秋	07105	木	3	田口　雅徳	2	2(3)		

シラバス目次

（2002年度以前入学者適用科目）

【教職課程】　－－　教職に関する科目　－－

科目名	学期	時間割コード	曜日	時限	担当者	単位	学年（学期）	備考	ページ
教職論	春	06900	金	4	小島　優生	2	1（1）		1
	春	06902	木	4	下地　秀樹				2
	秋	06903	木	4					
	秋	06901	月	3	吉田　武大				3
教育原論	春	06904	火	1	小島　優生	2	1（1）		4
	秋	06905	金	4					
	春	06906	木	3	下地　秀樹				5
	秋	06907	木	3					
教職心理学	春	06908	木	1	田口　雅徳	2	1（1）		6
	秋	06909	木	1					
	秋	06911	水	1	森川　正大				7
	春	06910	火	4	横田　雅弘				8
教育制度	春	06915	金	5	小島　優生	2	2（3）		9
	春	06912	月	3	吉田　武大				10
	春	06914	月	4					
	秋	06913	月	4					
教育課程論	春	06916	金	4	林　尚示	2	2（3）		11
	春	06917	金	3					
	春	06918	水	2	安井　一郎				12
	秋	06919	月	3					
ドイツ語科教科教育法Ⅰ	春	06920	月	5	本多　喜三郎	2	3（5）		13
ドイツ語科教科教育法Ⅱ	秋	06921	月	5		2	3（5）		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06923	火	5	浅岡　千利世	2	3（5）	受講者多数の場合は調整	14
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06928	火	5		2	3（5）		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06924	金	1	清水　由理子	2	3（5）	〃	15
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06929	金	1		2	3（5）		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06925	水	1	J．J．ダゲン	2	3（5）	〃	16
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06930	水	1		2	3（5）		
英語科教科教育法Ⅰ	春	06926	火	5	T．マーフィー	2	3（5）	〃	17
英語科教科教育法Ⅱ	秋	06931	火	5		2	3（5）		
フランス語科教科教育法Ⅰ	春	06932	木	1	中村　公子	2	3（5）		18
フランス語科教科教育法Ⅱ	秋	06933	木	1		2	3（5）		
社会科教育法Ⅰ	秋	06934	火	2	秋本　弘章	2	2（3）		19
社会科教育法Ⅱ	春	06935	火	1		2	3（5）		20
社会科教育法Ⅲ	秋	06936	火	1		2	3（5）		
地理・歴史科教育法Ⅰ	秋	06939	金	1	古川　堅治	2	2（3）		21
地理・歴史科教育法Ⅱ	秋	06940	木	1	秋本　弘章	2	3（5）		22
地理・歴史科教育法Ⅲ	春	06941	月	5	會田　康範	2	3（5）		23
公民科教育法Ⅰ	春	06937	金	4	小川　輝之	2	3（5）		24
公民科教育法Ⅱ	秋	06938	金	4		2	3（5）		
情報科教育法Ⅰ	春	06942	木	2	秋本　弘章	2	3（5）		25
情報科教育法Ⅱ	秋	06943	木	2		2	3（5）		
教科教育法特論Ⅰ	春	09110	火	3	安井　一郎	2	3（5）		26
	秋	06944	月	5					
教科教育法特論Ⅱ	春	09111	月	3	清水　由理子	2	3（5）		27
	秋	06945	月	3					
道徳教育の研究	春	06947	月	1	小島　優生	2	2（3）		28
	春	06949	火	4	安井　一郎				29
	秋	06948	火	2					
特別活動	春	06952	金	2	小川　輝之	2	2（3）		30
	春	06953	金	3					
	秋	06950	月	4	安井　一郎				31

シラバス目次

（2002年度以前入学者適用科目）

【教職課程】 －－ 教職に関する科目 －－

科目名	学期	時間割コード	曜日	時限	担当者	単位	学年(学期)	備考	ページ
教育方法学	春	06956	土	1	町田　喜義	2	2(3)		32
	秋	06957	土	1					
	春	06954	月	3	安井　一郎				33
	春	06955	火	2					
生徒指導法	春	06961	水	3	小川　輝之	2	2(3)		34
	秋	06960	金	3					
	春	06959	月	2	小島　優生				35
	春	06958	金	2	林　尚示				36
学校カウンセリング	春	06963	木	4	鈴木　乙史	2	2(3)		37
	秋	06964	木	4					
	春	06962	木	2	瀧本　孝雄				38
	春	06965	水	1	森川　正大				39
総合演習	春	06972	木	1	秋本　弘章	2	3(5)	受講者多数の場合は抽選	40
	春	06973	火	2					
	春	06966	水	2	小島　優生			〃	41
	秋	06967	火	1					
	春	06971	木	5	渋谷　英章			〃	42
	秋	06970	木	4					
	春	06968	月	5	安井　一郎			〃	43
	秋	06969	水	1					
教育実習論(事前・事後指導)	秋	06979	水	3	小川　輝之	2	3(5)		44
	秋	06978	金	2					
	秋	06974	月	1	小島　優生				45
	秋	06976	水	2					
	春	06975	月	4	安井　一郎				46
	秋	06977	火	4					
教育実習論Ⅱ(事後指導)	秋	06981	月	2	小島　優生	2	4(8)	カリキュラム外科目	47
	秋	09113	金	5					
	秋	06980	火	3	安井　一郎			カリキュラム外科目	48
	秋	09112	水	2					
介護ボランティアの理論と実践	秋	06997	水	1	小川　孔美	2	2(3)	カリキュラム外科目	49
	秋	09109	水	2					
教育実習Ⅰ	集中	07608	－	－	――――――――――	2	4(7)	※	――
教育実習Ⅱ	集中	07609	－	－	――――――――――	2	4(7)		――

※2006年度教育実習予定者は必ず登録すること

【教職課程】 －－ 教科に関する科目 －－

科目名	学期	時間割コード	曜日	時限	担当者	単位	学年(学期)	備考	ページ
日本史概説Ⅰ	春	06982	月	4	會田　康範	2	1(1)		50
日本史概説Ⅱ	秋	06983	月	4		2	1(1)		
外国史概説Ⅰ	秋	06984	金	1	兼田　信一郎	2	1(1)		51
外国史概説Ⅱ	春	06985	金	1	古川　堅治	2	1(1)		52
地理学概説Ⅰ	春	06986	月	2	秋本　弘章	2	1(1)		53
地理学概説Ⅱ	秋	06987	月	2		2	1(1)		
地誌学概説Ⅰ	春	06988	水	1	秋本　弘章	2	1(1)		54
地誌学概説Ⅱ	秋	06989	水	1		2	1(1)		
法律学概説	通年	06990	木	3	内山　良雄	4	2(3)	経・法は履修不可	55
政治学概説	通年	06991	木	1	杉田　孝夫	4	2(3)	経・法は履修不可	56
社会学概説	通年	06992	火	3	圓岡　偉男	4	2(3)		57
哲学概説	通年	06993	火	5	河口　伸	4	2(3)		58
倫理学概説	通年	06994	火	3	松丸　壽雄	4	2(3)		59
宗教学概説	通年	06995	木	5	河口　伸	4	2(3)		60
心理学概説	通年	06996	木	3	田口　雅徳	4	2(3)		61

【カリキュラム外科目】

2003年度以降入学者適用の科目ですが、免許法の一部改正により、2002年度以前入学の学生についても選択科目として履修することが望ましい科目です。

シラバス目次

（2003年度以降入学者適用科目）

【司書課程】

科目名	学期	時間割コード	曜日	時限	担当者	単位	学年(学期)	備考	ページ
生涯学習概論	秋	06998	木	5	渋谷　英章	2	2(3)		62
図書館概論	春	06999	金	4	山本　順一	2	2(3)		63
図書館サービス論	春	07035	木	2	千葉　治	2	2(3)		64
図書館経営論	秋	07036	木	2	井上　靖代	2	2(3)		
情報サービス論a	春	08747	月	2	福田　求	2	3(5)	受講定員あり	65
	春	08830	月	3		2	3(5)		
情報サービス論b	秋	08748	月	2	松下　鈞	2	3(5)	受講定員あり	
	秋	08831	月	3		2	3(5)		
情報検索演習	春	07003	金	1	高柳　敏子	2	3(5)	受講定員あり	66
	春	07004	火	4	福田　求	2	3(5)		67
	春	07005	火	3		2	3(5)		
図書館資料論	春	07006	金	5	山本　順一	2	2(3)		68
専門資料論	春	07007	月	5	松下　鈞	2	2(3)		69
資料組織概説	春	07008	月	4	松下　鈞	2	3(5)		70
資料組織演習	秋	07009	月	4	松下　鈞	2	3(5)	受講定員あり	
	秋	07010	月	5		2	3(5)		
児童サービス論	秋	07011	金	1	井上　靖代	2	2(3)		71
図書及び図書館史	秋	07012	木	4	井上　靖代	2	2(3)		72
資料特論	春	07015	木	1	千葉　治	2	3(5)		73
コミュニケーション論	春	07013	火	2	町田　喜義	2	2(3)		74
図書館特論	秋	07014	木	1	千葉　治	2	3(5)		75

（2002年度以前入学者適用科目）

【司書課程】

科目名	学期	時間割コード	曜日	時限	担当者	単位	学年(学期)	備考	ページ
生涯学習概論	秋	06998	木	5	渋谷　英章	2	2(3)		62
図書館概論	春	06999	金	4	山本　順一	2	2(3)		63
図書館サービス経営論	通	07000	木	2	(春)千葉　治 (秋)井上　靖代	4	2(3)		64
情報サービス論	通	07001	月	2	(春)福田　求 (秋) 松下　鈞	4	3(5)	受講定員あり	65
	通	07002	月	3					
情報検索演習	春	07003	金	1	高柳　敏子	2	3(5)	受講定員あり	66
	春	07004	火	4	福田　求				67
	春	07005	火	3					
図書館資料論	春	07006	金	5	山本　順一	2	2(3)		68
専門資料論	春	07007	月	5	松下　鈞	2	2(3)		69
資料組織概説	春	07008	月	4	松下　鈞	2	3(5)		70
資料組織演習	秋	07009	月	4	松下　鈞	2	3(5)	受講定員あり	
	秋	07010	月	5					
児童サービス論	秋	07011	金	1	井上　靖代	2	2(3)		71
図書及び図書館史	秋	07012	木	4	井上　靖代	2	2(3)		72
資料特論	春	07015	木	1	千葉　治	2	3(5)		73
コミュニケーション論	春	07013	火	2	町田　喜義	2	2(3)		74
図書館特論	秋	07014	木	1	千葉　治	2	3(5)		75

※(司)情報機器論は2006年度休講です。

シラバス目次

（全学生共通）

【司書教諭課程】

科目名	学期	時間割コード	曜日	時限	担当者	単位	学年(学期)	備考	ページ
学校経営と学校図書館	秋	07016	金	3	井上　靖代	2	2(3)		76
学校図書館メディアの構成	秋	07017	水	2	井上　靖代	2	2(3)		77
学習指導と学校図書館	秋	07019	木	3	井上　靖代	2	2(3)		78
読書と豊かな人間性	秋	07020	木	1	井上　靖代	2	2(3)		79
情報メディアの活用	秋	07021	火	3	小畑　信夫	2	2(3)	受講定員あり	80
	秋	07022	火	4					

※受講定員のある科目は、履修登録の際、先着順となります。
　春学期履修登録時に秋学期分を登録しても無効となりますので、ご注意下さい。

03 年度以降 02 年度以前	教職論	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義は教員免許取得者が教職員となることを想定し、養成や採用といった仕組みを理解するとともに、教師の職能成長とはどのようになされるべきかの課題をともに考えていく。 **講義概要** 教員としての仕事、養成の仕組み等を理解する理論編と並行して、埼玉県内のある高等学校の授業評価の取り組みを継続して扱う。この学校は生徒参加の授業評価を昨年から構想しているが、実現にはまだ課題が多く、制度設計のまっ最中にある。受講者の人数にもより、実際に見学に行くか、ビデオ等で見ながらの議論になるかは不明である。 **受講にあたって** 一方的な講義ではなく、学生の参加による双方向的な授業としたいので、積極的に参加してほしい。また、上記のとおり、授業評価の時などビデオを使って討論等もあるので、遅刻や欠席はできるかぎり謹んでほしい。	１．授業に関するガイダンス ２．Ｋ高校の授業評価の取りくみ（１） ３．教員という仕事 ４．教員の養成と採用 ５．Ｋ高校の授業評価の取り組み（２） ６．教員養成のしくみ ７．教員の採用選考 ８．教員の研修 ９．Ｋ高校の授業評価の取り組み（３） １０．　教員の身分保障 １１．　教員評価に関する新しい動向 １２．　総合討論 ＊授業評価の取り組みについては、当該学校の制度設計の進度により、随時織り込んでいきたいと考えているので、変更がありうることを了承いただきたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業開始時に指示する	小レポート、討論や見学への参加、テスト等を総合的に評価する。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	教職論	担当者	下地　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
【授業の目標】 　教師という存在について多様な視点から意見交換することを通じて、受講者各人が自己の教師像を相対化し、対象化する糸口を探ることを目的とする。 【授業の概要】 　毎回、この目的に関わる小レポートを課す。その論述を相互に討議し、批評しあう機会をなるべく多く設けたい。学期末最終授業時には、総括としてのテストを実施するか、または期末レポートを課し、さらに相互批評を行う。	1．導入：記憶のなかの教師 2．教員免許制度を考える（その１） 3．教員免許制度を考える（その２） 4．教師の役割を考える 5．奉仕について考える 6．職場環境を考える 7．体罰について考える 8．教師に成り行く道筋を考える（その１） 9．教師に成り行く道筋を考える（その２） 10. 教師に成り行く道筋を考える（その３） 11. 教師の権威について考える 12. まとめ 　以上はあくまでも計画であり、社会情勢により変更の可能性があることを了解願いたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。必要に応じて、授業中に紹介する。	各授業時の小レポートを重視し、これに最終授業時の総括テストまたは期末レポートを加味する。

03 年度以降 02 年度以前	教職論	担当者	下地　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降 02 年度以前	教職論	担当者	吉田　武大

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】・【講義概要】 本講義では、教職課程の入門科目として、教員の仕事や役割、そしてどうすれば教員になることができるかを理解するとともに、人間形成を志向する学校教育の実践的な資質能力、力量形成を模索させることを目的としている。	1. 教員とは何か 2. 学校教育制度の形成 3. 日本における教員制度の歴史 4. 教員の特質と現代的課題(1) 5. 教員の特質と現代的課題(2) 6. 教員の業務と服務(1) 7. 教員の業務と服務(2) 8. 教育をめぐる諸問題にどう取り組むか 9. 生徒指導～いじめと不登校 10. 生徒指導～非行、学級崩壊など 11. 教育実習と介護等体験 12. 教員採用試験までの道のり

テキスト、参考文献	評価方法
配布プリント類による	試験による（予定）

03 年度以降 02 年度以前	教育原論	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義は、教職課程履修者が最初に受講する講義として考えている。したがって、教職課程の基礎理論として歴史・思想や学校経営・教育行政など広く浅く取り混ぜながら解説し、導入とすることを目的としている。 **講義概要** 2. ～9. までは配布の資料等を参考に、講義形式で進める予定である。講義の終わりには小レポートを書いてもらい、(受講生の人数にもよるが) 数人には発表もお願いする。9．までの講義が終了後にグループを作成し、ひとつのテーマを選んで発表してもらう。 **受講にあたって** 一方的な講義ではなく、学生の参加による双方向的な授業としたいので、積極的に参加してほしい。また、上記のとおり、討論等もあるので、遅刻や欠席はできるかぎり謹んでほしい。	1．授業に関してのガイダンス 2．あなたが「先生」と呼ばれるとき 3．教育はどこでなされるか 4．何を教え、何を学ぶのか 5．教えながら、学びながら、共に生きながら 6．「掃除」や「給食」から学校教育をみつめ直す 7．社会のなかの学校 8．学級を経営する・学校を運営する 9．教育を問う 10.～11. グループディスカッション 12. 発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
追って指示する	小レポート、討論などへの参加、最終レポート等を総合的に評価する。

03 年度以降 02 年度以前	教育原論	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	教育原論	担当者	下地　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
【授業の目標】 「人間は教育されねばならない存在なのか否か」というテーマをめぐり、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、受講者各人が自己の（被）教育体験を対象化し，相対化する糸口を探ることを目的とする。 【授業の概要】 毎回、この目的に関わる小レポートまたは小テストを課す。その論述を相互に討議し、批評しあう機会をなるべく多く設けたい。 学期末最終授業時には、総括としてのテストを実施するか、または期末レポートを課し、さらに相互批評を行う。	１．導入：人間を考える ２．人間は教育されねばならない存在か？（その１） ３．人間は教育されねばならない存在か？（その２） ４．暫定的解読１（近代の両義性） ５．脳の可塑性を考える ６．社会環境の変容を考える ７．暫定的解読２（発達と教育の基礎理論） ８．近代学校を考える（その１） ９．近代学校を考える（その２） 10．近代学校を考える（その３） 11．大人と子どもの関係を考える 12．暫定的解読３（まとめ） 以上はあくまでも計画であり、社会情勢により変更の可能性があることを了解願いたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。必要に応じて、授業中に紹介する。	各授業時の小レポートまたは小テストを重視し、これに最終授業時の総括テストまたは期末レポートを加味する。

03 年度以降 02 年度以前	教育原論	担当者	下地　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	教職心理学	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
今日，日本の教育環境は大きな転換点にさしかかっている。こうした状況の中で，教育心理学においてこれまで得られてきた知見が，学校教育における子どもの理解や指導にどのように役立ちうるのかを受講者と共に考えていきたい。 本講義の授業概要は以下のとおりである。 １．教職心理学とはなにか？ ２．教育評価と学力問題 ３．学習の動機付け ４．障害の理解と教育	以下のような計画で授業を進める １．教育心理学とは何か？ ２．教育測定と教育評価 ３．教育評価の意義と役割 ４．教育評価の方法① ５．教育評価の方法② ６．学力とはなにか？ ７．学習における動機付け ８．学習意欲と原因帰属理論 ９．学習意欲と目標理論 10．学習意欲と教師の役割 11．障害の理解と対応① 12．障害の理解と対応②
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない 必要な資料は授業にて配布する	出席と学期末の試験により，総合的に評価をおこなう

03 年度以降 02 年度以前	教職心理学	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降 02 年度以前	教職心理学	担当者	森川　正大

講義目的、講義概要	授業計画
人間は、「こども」から「おとな」へと変化する存在であり、その過程は、家庭、学校、および社会による教育機能に支えられる。 教育は、人間の「発達」および「学習」の過程にかかわるはたらきであるが、この科目は、学校教育の心理学的基礎として、乳幼児期から青年期までの心身の発達と学習の過程について学び、かつ、青年期の「こども」にかかわる教師の役割について考察することを目標とする。 講義のほか、自己理解、他者理解を深めるための簡単なワークを取り入れ、生徒とのリレーション、教師のあり方についても考える機会としたい。 内容の柱は、以下のとおり。 ① 教育心理学の課題 ② 発達過程の諸原理 ③ 学習過程の諸原理 ④ 生徒の個人差とアイデンティティの形成 ⑤ 生徒理解のポイントとかかわり方 ⑥ 教師の役割	1 教育心理学の課題 2 人間の成長と発達の原理 3 発達段階と発達課題 4 児童期までの発達 5 青年期までの発達 6 社会性・道徳性の発達 7 学習の原理 8 内発的動機づけと学習意欲 9 個人差と教育 10 アイデンティティの形成 11 教育測定と評価：生徒理解のポイント 12 教師の役割／まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキストは用いない。プリントによる。参考文献は必要に応じて示す。	出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など）、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。

03 年度以降 02 年度以前	教職心理学	担当者	横田　雅弘

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の第一の狙いは、教師としての自分自身を知るということである。特に初等・中等教育の教師は子供たちと全人格的に交わるのであり、そのときに自分が教師として、あるいは人間としてどのような特性をもっているのか、どのような教師になりたいと思っているのか、そのために自分のどこを活かし、どこをより伸ばしていかねばならないかを知っていることが大切である。授業はこの自分理解の手助けを行う。第二の狙いは、**実際に教職についたときに役立つ心理学の実践的知識を身につけることである。ただし、教職で必要となる心理学の知識を半年間で網羅することは不可能である。むしろ、単に知識を暗記するのではなく、それらの知識を通して教職という仕事についての自分なりの考え方を確立してほしい。**授業は、教職に関する心理学の講義の他に、心理テストとそれを理解するための交流分析の理論講義とディスカッションが中心となる。	1 オリエンテーション 2 心理テスト TPI の記入 3 発達と教育（1）：発達観と教育、認知的発達 4 発達と教育（2）：道徳性の発達、知能の発達と創造性　＜自分の発達観と教育観を知る＞ 5 人間関係と社会性の発達: 親・友達・教師と子供、青年期のアイデンティティ　＜自分のアイデンティティ＞ 6 学習理論、動機づけ理論、創造性: 理論紹介 ＜自分の動機づけの傾向について考える＞ 7 交流分析の講義と自己分析（1） 8 交流分析の講義と自己分析（2） 9 ディスカッション＝教師としての自分の強みと弱みの自己分析、教師の自己表現について 10 学校不適応と精神衛生：不適応に関係する心理的メカニズム 11 カウンセリングの基礎知識（1） 12 カウンセリングの基礎知識（2） 13 小テスト実施およびレポート（A4 ワープロ 2 枚）
テキスト、参考文献	**評価方法**
パワーポイントの資料は全てプリントとして配布する。 その他の参考文献は適宜授業中に紹介する。	小テストとレポートを中心に出席を加味して総合的に評価する。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	教育制度	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義は教師となるにあたって必要となる学校や教師を取り巻くさまざまな法や制度について、基本的な理解をすると同時に、昨今の教育改革についても知識を得、自分なりの「学校のあり方」像を持つことを目的とする。 **講義概要** 学校や教師をとりまく制度や法について、概略の説明をした後、その制度に関する最近の動向を紹介する。その動向について、ディスカッションや感想文を書くことで自分の意見を明確化していけるようにしたい。 **受講にあたって** ディスカッションに関しては積極的な参加を期待している。また、自分の理想的な学校観を考える際に、常に「なぜそのように考えるのか」と理由を明確にする努力をしてほしい。	1．授業に関してのガイダンス 2．教育行政を動かす組織 3．教育を受ける権利の保障（1）義務教育と就学保障 4．　〃　（2）不登校 5．学校の管理と経営（1）学校経営と教育委員会 6．　〃　（2）学校運営のための組織 7．　（3）諸外国の学校経営改革 8．教育活動を支える諸条件（1）教職員配置 9．　（2）少人数学級の試み 10. 教職員の養成・採用・研修と身分保障 11. 　〃　（2）教員評価 12. 教育課程行政と教科書
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献 勝野正章・藤本典裕編（2005）『教育行政学』学文社	ディスカッションへの参加、小レポート、最終レポート等を総合的に評価する。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	教育制度	担当者	吉田　武大

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目標】 教職課程の入門科目として、学校を中心とした教育をめぐる諸問題について、とくに教育制度の側面から理解を深めることを目標とする。 【講義概要】 1. 公教育制度がどのように形成されてきたのかを理解するために、その歴史的展開について学習する。 2. 現代日本の教育制度について、教育行政、学校組織などを中心に学習していく。 3. 諸外国の教育制度の動向を適宜取り上げながら、現代日本の教育制度が抱える諸問題を明らかにする。	1. 教育制度の役割 2. 諸外国の公教育制度の形成 3. 日本の公教育制度の形成 4. 公教育の原理 5. 教育基本法体制と教育行政 6. 学習指導要領と教育課程 7. 学校経営 8. 学級経営 9. 教員養成制度 10. 教員の業務と研修 11. 教育制度をめぐる諸問題１ 12. 教育制度をめぐる諸問題２
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリント類による	期末の試験による

03 年度以降 02 年度以前	教育制度	担当者	吉田　武大

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	教育課程論	担当者	林　尚示

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 学校教育において、生徒の学級や学校生活への適応を図るとともに、その充実と向上、生徒が直面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資するための教育の内容と方法を探る。 講義概要 学習指導を中心に教室を運営するには、教育目標、指導内容、教授方法、授業評価などを統合的に把握し、計画し準備する必要がある。 各教科教育における問題解決的な学習など、生徒の興味や関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるような授業計画および内容等について学ぶ。	全 12 回の授業計画 1　教育課程の基本原理 2　学習指導要領 3　教育課程と学習内容 4　新しいカリキュラム 5　カリキュラム開発 6　学習指導の原理 7　学習指導の形態 8　授業づくり 9　教育工学 10　授業分析 11　教育評価 12　これからの教育実践
テキスト、参考文献	**評価方法**
樋口直宏、林尚示、牛尾直行編著『実践に活かす教育課程論・教育方法論』学事出版、2002 年。	レポート

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	教育課程論	担当者	安井　一郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　本講は、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。 講義概要 　学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、ＶＴＲ教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。	1　教育課程と学力問題 2　教育課程とは何か 3　日本の教育課程 4　教育課程編成の理論と方法(1) 5　教育課程編成の理論と方法(2) 6　教育課程編成の理論と方法(3) 7　学習指導要領と教育課程(1) 8　学習指導要領と教育課程(2) 9　学習指導要領と教育課程(3) 10　新教育課程の検討 11　総合学習の可能性 12　教育課程研究の今日的課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
文部科学省『中学校学習指導要領』 その他は、講義の中で紹介する	出席、レポート、試験による総合評価

03 年度以降 02 年度以前	教育課程論	担当者	安井　一郎

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	ドイツ語科教科教育法Ⅰ	担当者	本多　喜三郎

講義目的、講義概要	授業計画
外国語教授法に関する基礎知識は参考文献から得て欲しい。ここではドイツ語の初級文法で扱う主たる文法項目を取り上げて、その教授法を研究します。先ず受講生により思い通りに模擬授業を行ってもらい、問題点を議論します。「分かりやすい教え方」を目指しますが、当然ながら「正解」はありません。与えられた条件の中で臨機応変に適切な教授法を工夫する能力を養うのが目的です。	1　オリエンテーション 2　アルファベット　/　単語の発音 3　人称代名詞　/　動詞の現在人称変化 4　名詞の性・数・格　/　冠詞 5　命令法　/　再帰動詞 6　話法の助動詞 7　動詞の 3 基本形　/　過去人称変化 8　完了形 9　受動態 10　形容詞の格変化 11　関係代名詞 12　接続法
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉島茂/境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年 G.Neuner/H.Hunfeld: Methoden des fremdsprachlichen Deutschunterrichts Langenscheidt 1993	出席状況、模擬授業、教案による。

03 年度以降 02 年度以前	ドイツ語科教科教育法Ⅱ	担当者	本多　喜三郎

講義目的、講義概要	授業計画
教壇実習によりドイツ語教授法の具体的なテクニックを習得させることを目的とする。指定した教科書に基づいて受講生全員が学期中に少なくとも 1ー2 回の模擬授業を行い、予め配付された授業評価用紙に記入して互いの授業を評価し合います。	1　オリエンテーション 2　模擬授業による教授法の研究 3　同上 4　同上 5　同上 6　同上 7　同上 8　同上 9　同上 10　同上 11　同上 12　同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉島茂/境一三著『ドイツ語教授法』三修社 2003 年 G.Neuner/H.Hunfeld: Methoden des fremdsprachlichen Deutschunterrichts Langenscheidt 1993	出席状況、模擬授業、教案、授業評価用紙による。

03 年度以降 02 年度以前	英語科教科教育法 I	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
The course presents theoretical and practical issues of language learning and teaching from the general perspective as well as from the perspective of Japanese contexts. **Please refer to *Kogi-shien System* whenever you miss a class which will be updated with the latest information.** This class will be partially team-taught by Tim Murphey and Chitose Asaoka. *The number of students for this class **is limited to 45**. Please attend the orientation on April 6th in order to register your choices.*	Tentative Schedule 1: Introduction to course 2: Reflection on language learning and teaching 3: Theoretical approaches and methods 4: Syllabus and teaching guidelines 5: Textbooks 6: Classroom management & lesson planning 7: Classroom management & lesson planning 8: Material development 9: Using songs and music 10:Testing and evaluation 11: Team teaching 12:Teaching global issues
テキスト、参考文献	**評価方法**
Handouts、workbook and 講義支援システム	Your grade will be based on journals, in-class work (attendance, participation, speech etc.), lesson plans(J), self evaluation and a final exam.

03 年度以降 02 年度以前	英語科教科教育法 II	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
教科教育法 I をふまえた上で言語の 4 技能の実践的指導方法を学び、模擬授業や討論を中心に進める。I/II を連続履修することが望ましい。 模擬授業は全員がそれぞれ３回行い、ビデオで録画する。録画ビデオを用いて教員との復習セッション〈授業外〉や自己評価を行なう。 This class will be partially team-taught by Tim Murphey and Chitose Asaoka. *The number of students for this class **is limited to 45**. Please attend the orientation on April 6th in order to register your choices.*	Tentative Schedule 1. Introduction to course, classroom language 2. Lesson planning 3. Individual presentations, lesson planning 4. Individual presentations, lesson planning 5. Micro-teaching I (pairs) 6. Micro-teaching I (pairs), feedback session 7. Micro-teaching II (group) 8. Micro-teaching II (group) 9. Micro-teaching II (group) 10. Micro-teaching II (group) 11. Micro-teaching II (group) 12. Reflection
テキスト、参考文献	**評価方法**
Handouts, workbook and 講義支援システム	Your grade will be based on journals, in-class work, lesson plans(E), self evaluations and micro-teaching segments.

03 年度以降 02 年度以前	英語科教科教育法 I	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 　言語教育における理論と実践方法の変遷をたどり、どのような試みがなされてきたかを概観し、日本における英語教育の現状とこれからの英語教育の在り方を考える。 [概要] 　文法中心の考え方から、コミュニケーション能力育成を重視した授業形態が求められているなど、近年、英語教育現場にさまざまな変化が生じている。学習者として自分が受けてきた英語教育方法とは違う考え方ややり方を理解し、対応できるようになるにはどうしたらよいか考える。 　講義やビデオ教材などを用いながら、語学教育に関する基本的な考え方や指導方法を紹介する。また、実際に教材を作るなど実践的な面も取り入れていく。 　受講者数の偏りを避けるため、本年度は定員を 45 名とする。 4 月 6 日の免許課程のオリエンテーションに必ず出席してほしい。	1. Introduction　授業の進め方、研究課題について英語教師に望まれること 2. 日本における英語教育　(1) ―変遷と現状― 3. 日本における英語教育　(2) 4. Language Teaching Methodology (1) 5. Language Teaching Methodology (2) 6. Language Teaching Methodology (3) 7. Audio-Visual Aids (1) 8. Audio-Visual Aids (2) 9. Testing and Evaluation (1) 10. Testing and Evaluation (2) 11. Planning Lessons (1) 12. Planning Lessons (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは定めないが、参考文献を授業中に紹介する。授業の Web ページも参照のこと。	出席状況、レポートおよび期末試験による。但し、出席が授業回数の半分以下の場合は不可とする。

03 年度以降 02 年度以前	英語科教科教育法 II	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 　春学期の講義等を基に、授業一回分の指導案を作成し、模擬授業として実践してみる。 ［講義概要］ 　中学校または高等学校向けの学習指導案の作成とそれに基づく模擬実習を行う。実践とそれについてのディスカッションが中心となる。 　また、学外の公開研究授業に参加し、そのレポートを提出してもらう。詳しくは、授業時に説明する。	1. Introduction 2. Teaching listening and speaking 3. Teaching reading and writing 4. 模擬実習　① 5. 模擬実習　② 6. 模擬実習　③ 7. 模擬実習　④ 8. 模擬実習　⑤ 9. 模擬実習　⑥ 10. 模擬実習　⑦ 11. 模擬実習　⑧ 12. 模擬実習　⑨、まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは定めないが、必要に応じて参考文献を紹介する。	平常点、レポートおよび模擬授業による。但し、出席が授業回数の半分以下の場合は不可とする。

03 年度以降 02 年度以前	英語科教科教育法 I	担当者	J.J. DUGGAN

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to not just introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach), but also to establish a basis of understanding of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based, and upon which the student will be able to build and develop a coherent plan of instruction. We shall spend most of this term in reading, lecture, and discussion of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based. As class time is limited and valuable, students will be expected to keep up on the reading on their own time. Class time will be reserved for lecture and discussion. If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail. Note: Student numbers for this course will be limited to 45.	Week 1: Course description & explanation. Assignment, reading. Week 2: Theme: The teaching situation. Lecture, discussion, assignment. Week 3: Theme: The role of the teacher. Lecture, discussion, reading. Week 4: Theme: The role of the school. Lecture, discussion, reading, assignment. Week 5: Theme: The role of the student. Lecture, discussion. Week 6: Theme: Testing and Surveys. Lecture, discussion, presentations, assignment. Week 7: Theme: Testing. Lecture, discussion, reading. Week 8: Theme: How is language learned? Lecture, discussion, reading. Week 9: Theme: The history of language teaching. Lecture, discussion. Week 10: Theme: Approach and method--traditional. Lecture, discussion, handouts. Week 11: Theme: Approach and method--modern. Lecture, discussion, assignment, reading. Week 12: Planning a lesson. Lecture, discussion. First semester summary and review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Handouts	Grades are based on in-class participation, a number of assignments, and a final assessment based on the handouts and lecture.

03 年度以降 02 年度以前	英語科教科教育法 II	担当者	J.J. DUGGAN

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach) involved in teaching a successful language class, built on an understanding of the approaches, concepts, and reasoning on which foreign language education is based as presented in the first semester. This course will be devoted to student in-class practice teaching based on the material covered in the first semester, and incorporating practical teaching techniques that will be covered in reading and lecture. We will first look at materials and techniques used in teaching the various language skills, and then develop a lesson plan making use of said techniques. If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail. Note: Student numbers for this course will be limited to 45.	Week 1: Course Introduction, Decide presentation schedule Week 2: Teaching Grammar--Lecture, Activities Week 3: Teaching Grammar--Student presentations Week 4: Teaching Reading--Lecture, Activities Week 5: Teaching Reading--Student presentations Week 6: Teaching Writing--Lecture, Activities Week 7: Teaching Writing--Student presentations Week 8: Teaching Listening--Lecture, Activities Week 9: Teaching Listening--Student presentations Week 10: Teaching Oral Communication--Lecture, Activities Week 11: Teaching Oral Communication--Student presentations Week 12: Course Review, Make-up presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hubbard, P. et al., *A Training Course for TEFL.* (Oxford Univ. Press.) Handouts.	Grades are based on in-class participation, a number of assignments, a presentation, and a final paper.

03 年度以降 02 年度以前	英語科教科教育法 I	担当者	T. Murphey

講義目的、講義概要	授業計画
The course presents theoretical and practical issues of language learning and teaching from the general perspective as well as from the perspective of Japanese contexts. **Please refer to our *Yahoo Groups* whenever you miss a class which will be updated with the latest information.** This class will be partially team-taught by Tim Murphey and Chitose Asaoka. *The number of students for this class **is limited to 45**. Please attend the orientation on April 6th in order to register your choices.*	Tentative Schedule 1: Introduction to course 2: Reflection on language learning and teaching 3: Theoretical approaches and methods 4: Syllabus and teaching guidelines 5: Textbooks 6: Classroom management & lesson planning 7: Classroom management & lesson planning 8: Material development 9: Using songs and music 10:Testing and evaluation 11: Team teaching 12:Teaching global issues
テキスト、参考文献	**評価方法**
Handouts, workbooks, and Yahoo Groups	Your grade will be based on journals, in-class work (attendance, participation, speech etc.), lesson plans, self evaluation and a final exam.

03 年度以降 02 年度以前	英語科教科教育法 II	担当者	T. Murphey

講義目的、講義概要	授業計画
教科教育法 I をふまえた上で言語の 4 技能の実践的指導方法を学び、模擬授業や討論を中心に進める。I/II を連続履修することが望ましい。 模擬授業は全員がそれぞれ 3 回行い、ビデオで録画する。録画ビデオを用いて教員との復習セッション〈授業外〉や自己評価を行なう。 This class will be partially team-taught by Tim Murphey and Chitose Asaoka. *The number of students for this class **is limited to 45**. Please attend the orientation on April 6th in order to register your choices.*	Tentative Schedule 1. Introduction to course, classroom language 2. Lesson planning 3. Individual presentations, lesson planning 4. Individual presentations, lesson planning 5. Micro-teaching I (pairs) 6. Micro-teaching I (pairs) 7. Micro-teaching II (group) 8. Micro-teaching II (group) 9. Micro-teaching II (group) 10. Micro-teaching II (group) 11. Micro-teaching II (group), 12. Reflection Closing
テキスト、参考文献	**評価方法**
Handouts, workbooks, and Yahoo Groups	Your grade will be based on journals, in-class work, lesson plans(E), self evaluations and micro-teaching segments.

03 年度以降 02 年度以前	フランス語科教科教育法 I	担当者	中村　公子

講義目的、講義概要	授業計画
＜講議目的＞ 言語教育に携わっていく上で必要な基礎的知識の学習と教育実習に必要な事柄の習得。また日本におけるフランス語教育および言語教育の現状と「これから」について考えていく。 ＜講議概要＞ フランス語教育の歴史的変遷や教材、教室活動、教案の書き方、評価の仕方、などを紹介する。 主に講議形式となるが、教材分析や教案の作成などグループ作業や個人作業も取り入れる。 各自が自分で講義内容をまとめたノートを作成すること。	1. 導入 2. コースデザイン、シラバスデザイン、 カリキュラムデザイン 3. 言語教育における教授法の歴史的変遷 1 4. 言語教育における教授法の歴史的変遷 2 5. 教材分析 1 6. 教材分析 2 7. 教室活動 1 8. 教室活動 2 9. 教材、教具の種類とその選択について 10. 授業実践のための準備とまとめ 教案の書き方 11. 評価について 12. まとめ （順番は多少前後することがある）
テキスト、参考文献	**評価方法**
各テーマに応じて授業中に指示する。	出席と授業参加態度重視。 授業中の講義内容ノート、授業での発表、課題、レポート等での総合評価。

03 年度以降 02 年度以前	フランス語科教科教育法 II	担当者	中村　公子

講義目的、講義概要	授業計画
＜講議目的＞ 教壇に立つための訓練を通して、教師の役割、授業準備や教室活動の実際、授業を行う際の注意点や問題点などについて考える。 ＜講議概要＞ 毎回、学生による模擬授業を行う。 「教案作成→授業準備→授業実施→評価と反省 →次回克服する課題を決める」 毎回、上記のような流れになる。 短時間の模擬授業を数回行えるようにする予定。 回数と持ち時間は受講者数に従って、秋学期の最初の授業時に決める。	1. 導入：模擬授業のための準備 2. 模擬授業 3. 模擬授業 4. 模擬授業 5. 模擬授業 6. 模擬授業 7. 模擬授業 8. 模擬授業 9. 模擬授業 10. 模擬授業 11. 模擬授業 12. まとめ：教育実習のための注意点など
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて授業中に指示する	出席と授業参加態度重視。 模擬授業の教案と準備、模擬授業、反省・感想文、注意点のまとめ、レポート等での総合評価。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降 02 年度以前	社会科教育法Ⅰ	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。 社会科教育法Ⅰでは、社会科の基本的性格を明らかにするとともに、学習指導要領に基づいて、教科の内容について基本的知識を身につける。また、今日社会科教育に課されている課題について考える。 なお、科目の性質上、単なる講義ではなく受講者の発表等を取り入れながら授業を進めていく。 ＊中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。	1　社会科教員の１日 2　社会科成立の背景と意義 3　社会科の教育課程とその変化（1） 4　社会科の教育課程とその変化（2） 5　社会科の教育内容（1）地理的分野 6　社会科の教育内容（2）歴史的分野 7　社会科の教育内容（3）公民的分野 8　社会科の今日的課題（1）国際化 9　社会科の今日的課題（2）社会の変化 10　社会科の今日的課題（3）環境 11　社会科の今日的課題（4）人権 12　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
文部省『中学校学習指導要領解説（平成 10 年 12 月）社会編』大阪書籍ほか	授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。

03年度以降 02年度以前	社会科教育法Ⅱ	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。社会科教育法Ⅱでは、社会科の授業実践のための様々な技能を身につけることを目的とする。 社会科で身につけるべき広い意味での学力（知識・技能・態度等）を踏まえて、授業形態別に実践のための知識と技能を具体的に学んでいく。また、情報通信機器等に活用や地域との連携についても考えていく。科目の性質上、授業時に課題等が多く課せられる。また、臨地学習については見学先等との都合により、日時をかえて行なう場合がある。 ＊中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。	1　社会科の目標と身につけるべき力 2　学習と評価 3　講義式授業の特質 4　教材の収集と利用（1）新聞・雑誌・書籍 5　教材の収集と利用（2）視聴覚教材 6　教材の収集と利用（3）インターネット等 7　生徒主体の学習指導法（1）調べ学習の指導 8　生徒主体の学習指導法（2）ディベートと発表 9　シミュレーション教材の利用 10　臨地学習の意義と計画 11　臨地学習の実践 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
文部省『中学校学習指導要領解説（平成10年12月）社会編』大阪書籍ほか	授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。

03年度以降 02年度以前	社会科教育法Ⅲ	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。 社会科教育法Ⅲでは、社会科の年間学習指導計画および学習指導案の書き方を学習した後、模擬授業を行い、社会科の教員としての望ましい知識と態度を身につける。 ＊中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。	1　学校カリキュラムの中の社会科 2　社会科各分野の特性、内容と年間学習指導計画 3　地理的分野の内容構成 4　歴史的分野の内容構成 5　公民的分野の内容構成 6　学習指導案の作成と模擬授業の準備 7　模擬授業（1） 8　模擬授業（2） 9　模擬授業（3） 10　模擬授業（4） 11　模擬授業（5） 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
文部省『中学校学習指導要領解説（平成10年12月）社会編』大阪書籍ほか	授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	地理・歴史科教育法Ⅰ	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 「歴史」を教えるということは、常に教える側の歴史観を問われることでもある。その意味で「歴史」を教えることの「コトの重大さ」を認識する必要がある。それらを前提に現代の歴史学の成果と歴史教育の関連、歴史教育の沿革と具体的な教授法などを取り上げながら、歴史を教える基本的なスタンスを確立することが本講座の主目的である。 ＜講義概要＞ 　講義ではプリントを配布しながら概説的に説明していくが、現在話題となっている諸外国との歴史の共通認識の問題や教科書問題についても考えていきたい。授業はアト･ホームな雰囲気で行なうことに心がけたいので、受講生も積極的に発言等に努め、授業に参加していただきたい。なお、後半三回は「模擬授業」の回をもうけ、各回とも一人（あるいは、二人）ずつそれぞれ自分の好きなテーマを選んで「授業」（３０～５０分）を行なってもらう。	１．はじめに：なぜ歴史を学ぶのか？ （歴史学の課題、歴史研究と歴史教育の関係） ２．歴史教育の方法（その１：映像資料を使った学習と史・資料の操作） ３．歴史教育の方法（その２：人物の採り上げ方と地域学習） ４．『世界史Ａ』と『世界史Ｂ』の扱い方（Ａ科目とＢ科目の意味と授業構成） ５．歴史教育におけるヨーロッパ史（その１：ヨーロッパ史教育の今日的意味） ６．歴史教育におけるヨーロッパ史（その２：国際歴史教科書対話） ７．歴史教育におけるアジア史（その１：日韓教科書論争と日本のアジア認識） ８．歴史教育におけるアジア史（その２：世界史の中の東アジアと歴史認識の共通化問題） ９．まとめ：歴史の怖さと面白さ １０～１２．模擬授業（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、プリントを配布する。また、参考文献は初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布する。	期末レポート、小レポート、出席点を加味して総合的に評価する。なお、模擬授業実施者は発表をもって期末レポートの代用とする。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降 02 年度以前	地理歴史科教育法Ⅱ	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
高等学校における地理教育の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、授業実践上基礎的な知識・技能の育成を目指す。 本講義では、日本の地理教育史、各国の地理教育の現状を踏まえ、地理で身につけさせるべき見方・考え方・技能について実践的に考察する。 ＊高等学校「地理・歴史科」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと	1. 地理教育の目標 2. 日本の地理教育の歩み 3. 諸外国の地理教育 4. 地理的見方・考え方について 5. 地図・地球儀の扱い方（1） 6. 地図・地球儀の扱い方（2） 7. 野外観察・調査の意義と計画 8. 野外観察の実践 9. 系統地理の学習指導 10. 地誌の学習指導 11. 主題的方法の学習指導 12. 授業環境の整備、学習指導計画と学習指導案

テキスト、参考文献	評価方法
文部省『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』実教出版　参考文献は授業中に示される。	授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。

03 年度以降 02 年度以前	地理・歴史科教育法Ⅲ	担当者	會田　康範

講義目的、講義概要	授業計画
歴史教育の「場」がどのように構成されてきたか，振り返ってみてほしい。その内容・教材構成・授業者と学習者，さまざまな要素とそれらの相互関係から成り立つ歴史教育（とりわけ日本史）のあり方を考察し討論することを通じて，教職を志す学生に授業を創造する力を養ってもらいたい。	1. 歴史を学ぶこと・教えること① 2. 歴史を学ぶこと・教えること② 3. 歴史研究と歴史教育① 4. 歴史研究と歴史教育② 5. 学習指導要領と教科書叙述① 6. 学習指導要領と教科書叙述② 7. 授業実践事例研究① 8. 授業実践事例研究② 9. 授業実践事例研究③ 10. 学習指導案の作成① 11. 学習指導案の作成② 12. まとめ なお，上記の計画は受講者の人数や授業展開により変更されることもある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストは使用せず，プリントを配布する。参考文献は講義の中で紹介する。	授業への参加状況とレポートなどを総合的に評価する。状況に応じて簡単な小レポートを課すこともある。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	公民科教育法Ⅰ	担当者	小川　輝之

講義目的、講義概要	授業計画
社会科・公民科教育の歴史的変遷を通して、公民科教育の意義と課題について考察する。 また「高等学校学習指導要領解説公民編」を活用して、公民科の目標、内容とその取扱い、指導計画の作成と指導上の配慮事項等について考察するとともに、具体的に公民科の授業づくりについて検討する。 テキストや配付予定のプリントを活用して講義中心の授業を行うが、公民科教育に関わる今日的な話題や課題については、討論会やディベート等を行う機会を持つことを考えている。	1．社会科・公民科教育の変遷 ① 社会科の成立と意義 ② 社会科教育の変遷と公民教育 ③ 社会科教育の再編成と公民科の創設 2．平成 11 年度版「学習指導要領公民科」の研究 ① 公民科の目標 ② 公民科各科目の内容とその取り扱い ③ 公民科各科目の指導計画の作成と指導上の配慮事項 ④ 公民科各科目にわたる内容の取り扱い 3．授業実践事例研究Ⅰ ① 学習指導案・評価問題の作成 ② 公民科各科目の授業づくり
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　文部省『高等学校学習指導要領解説公民編』 実教出版	試験、レポート、研究活動・発表、出席状況等で総合的に評価する

03 年度以降 02 年度以前	公民科教育法Ⅱ	担当者	小川　輝之

講義目的、講義概要	授業計画
教育現場での先進的な授業実践に触れるとともに、公民科各科目の学習指導案に基づいた模擬授業を行い、公民科教育における実践的な指導力を養うことを目指している。 公民科教育法Ⅱでは、公民科の授業における実践的な力量形成を図ることが目的なので、受講生の意欲的な授業参加、取り組みを期待する。	1．公民科教育の在り方 ① 指導計画の作成と授業展開 ② 学習指導の工夫 ③ 評価の工夫 2．授業実践研究 ④～⑤　授業実践事例研究 ⑥～⑫　模擬授業（含評価問題）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　文科省『高等学校学習指導要領解説公民編』 実教出版 参考書　魚山・小泉・楢原・宮崎編 『社会科・公民科教育マニュアル　清水書院	学習指導案、模擬授業、レポート等で総合的に評価する

03年度以降 02年度以前	情報科教育法Ⅰ	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。 情報科教育法Ⅰでは、情報科成立の背景から始めて、学習指導要領にもとづき情報科の内容を検討し、効果的な教育方法を考える。情報機器の利用方法を身につけると同時に学校におけるコンピュータ室の情報教室、学校全体の情報環境の整備・ネットワーク管理の基礎的な技能の育成も図る。	1　オリエンテーション 2　情報科成立の背景 3　普通教科「情報」の目的 4　普通教科「情報」の科目構成と各科目の特色 5　専門教科「情報」の目的 6　専門教科「情報」の科目構成と内容の概略 7　情報科教材研究（1）情報A 8　情報科教材研究（2）情報B 9　情報科教材研究（3）情報C 10　情報科教材研究（4）専門教科「情報」 11　情報科教材研究（5）専門教科「情報」 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
文部省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂ほか	授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。

03年度以降 02年度以前	情報科教育法Ⅱ	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。 情報科教育法Ⅱでは、年間学習指導計画・学習指導案の作成、先進校授業参観、模擬授業を予定している。 なお、先進校授業参観については、相手校の都合等により日時をかえて行なう場合がある。	1　普通教科「情報」の特性と年間学習指導計画 2　専門教科「情報」の各科目の配置と年間学習指導計画 3　「情報」学習指導の実際（授業見学） 4　「情報」学習指導の実際（授業見学） 5　「情報」学習指導の実際（授業見学） 6　学習指導案の作成 7　学習指導案の作成 8　模擬授業（1） 9　模擬授業（2） 10　模擬授業（3） 11　模擬授業（4） 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
文部省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂ほか	授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。

03 年度以降	教科教育法特論Ⅰ	担当者	安井　一郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　本講は、中学校における各教科の指導法に関する科目との関連を図りながら、中学校の教科教育に関する理解を広げ、教育課程及び各教科の指導法に関する学習を深めることを目的とする。 講義概要 　本講では、中学校教育の目的・目標、中学校の教育課程における教科教育の意義と役割、教科教育と教科外教育との関係、学力と評価、教科教育の今日的課題等を明らかにすることによって、教科教育に関する理解を深める。 　また、いくつかのグループに分かれ、総合的学習との関連を図った教科学習のカリキュラム案を作成する。	1　確かな学力とは何か 2　中学校教育の教育課程 3　教科と総合的な学習 4　総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(1) 5　総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(2) 6　総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(3) 7　総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(4) 8　総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(5) 9　総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(6) 10　総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(7) 11　総合的な学習との関連を図った教科学習のカリキュラム作成(8) 12　作成したカリキュラムの発表・検討
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義の中で紹介する	出席、レポート、試験による総合評価

03 年度以降	教科教育法特論Ⅰ	担当者	安井　一郎

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降	教科教育法特論Ⅱ	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 英語学科以外の人で、英語の免許を取る予定の人が対象となるコースである。 英語という言語の特徴を再確認しながら、教育現場で役立つ指導方法を考える。また、第二言語習得理論の視点から、どのような要因が効果的な言語学習に関わっているか考察する。 [講義概要] 各テーマについての講義、受講者の研究発表と討論を交えて進めていく。詳しくは最初の授業時に説明する。	1. Introduction 2. Pronunciation 3. Pronunciation　(Presentation and discussion) 4. Listening & Speaking 5. Listening & Speaking (Presentation and discussion) 6. Reading & Writing 7. Reading & Writing　(Presentation and discussion) 8. Vocabulary and Corpus Linguistics 9. Grammar 10. Second Language Acquisition 11. Motivation 12. Learning Strategies
テキスト、参考文献	**評価方法**
David Nunan (Ed.) (2003) *Practical English Language Teaching*, McGraw Hill.	平常点(課題についての発表、出席状況など)とレポートによる。

03 年度以降	教科教育法特論Ⅱ	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 英語学科以外の人で、英語の免許を取る予定の人が対象となるコースである。 英語という言語の特徴を再確認しながら、教育現場で役立つ指導方法を考える。また、第二言語習得理論の視点から、どのような要因が効果的な言語学習に関わっているか考察する。 [講義概要] 各テーマについての講義、受講者の研究発表と討論を交えて進めていく。	1. Introduction 2. Pronunciation 3. Pronunciation　(Presentation and discussion) 4. Listening & Speaking 5. Listening & Speaking (Presentation and discussion) 6. Reading & Writing 7. Reading & Writing　(Presentation and discussion) 8. Vocabulary and Corpus Linguistics 9. Grammar 10. Second Language Acquisition 11. Motivation 12. Learning Strategies
テキスト、参考文献	**評価方法**
David Nunan (Ed.) (2003) *Practical English Language Teaching*, McGraw Hill.	平常点(課題についての発表、出席状況など)とレポートによる。

03 年度以降 02 年度以前	道徳教育の研究	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義は、以下 2 つの目的を持っている。 ① わが国で行われている道徳教育について、沿革や位置づけ、技法について理解すること。 ② それらをもとに副読本の内容を分析し時には自身で資料を探した上で授業案を作成し、授業ができるようにすることを目的とする。 **講義概要** 全 12 回の講義を半分に分け、前半では上記のような沿革や技法に関しての講義を中心に行う。続いて後半では、授業案を作成し、グループ討論や模擬授業を行う。 **受講に当たって** 上記のように、グループ討論や模擬授業等、参加型の授業をする予定であるので、遅刻や無断欠席はできるだけ謹んでほしい。また、ディスカッションや見学など、積極的の発言・参加してほしい。	1．授業に関してのガイダンス 2．道徳教育の沿革（1） 明治期から昭和前半期まで 3．道徳教育の沿革（2） 敗戦から昭和 33 年特設「道徳」実施まで 4．道徳教育の沿革（3） 特設「道徳」から現在まで 5．「道徳の時間」の位置づけ 6．道徳の授業の実際（ゲストスピーカー？） 7．～8．指導案の作成 9．～10. グループ討論 11. ～12. 模擬授業・全体討論
テキスト、参考文献	**評価方法**
山崎英則編著（2004）『新・道徳教育論』ミネルヴァ書房	小レポート、出席、指導案、授業への参加・発言と最終レポートを総合的に評価する。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	道徳教育の研究	担当者	安井　一郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　本講は、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、児童・生徒の人間形成においてきわめて重要な役割を果たす道徳教育の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。 講義概要 　道徳教育は、人間形成の基礎にかかわるものであり、人間が社会の中で人間として生きていくために不可欠の内容を有している。本講では、道徳教育の意義と目的、学校教育における位置と役割についての基本的理解を得たうえで、道徳について考えるうえでの基本的な問いを「教育において「いのち」のもつ意味は何か」と捉え、その観点から、今日の道徳教育の現状を分析し、その特徴と問題点を明らかにし、一人ひとりの子どもの「生きる力」の育成に資する道徳教育とは何かについての検討を加える。	1　自分の道徳教育体験を振り返る 2　道徳とは何か(1) 3　道徳とは何か(2) 4　学校教育における道徳教育の位置と役割(1) 5　学校教育における道徳教育の位置と役割(2) 6　「心のノート」について考える 7　教育における「いのち」の意味 8　「いのち」を考える授業(1) 9　「いのち」を考える授業(2) 12　「いのち」を考える授業(3) 13　学習指導案の作成(1) 12　学習指導案の作成(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
文部科学省『中学校学習指導要領』『心のノート　中学校』、その他は講義の中で紹介する	出席、レポート、試験による総合評価

03 年度以降 02 年度以前	道徳教育の研究	担当者	安井　一郎

講義目的、講義概要	授業計画
〈半期完結科目のため、講義目的などは春学期と同じ〉	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	特別活動	担当者	小川　輝之

講義目的、講義概要	授業計画
学校教育における「特別活動」の意義や基本的性格歴史的変遷等について考察するとともに「学習指導要領解説特別活動編」を中心に、「特別活動」の目標や内容、指導計画の作成と内容の取扱い等について具体的に検討する。 また「特別活動」に関わる今日的な諸課題を取上げ、課題解決に向けての方策や指導の在り方等について検討し、実践的な指導力を養うことを目的とする。 テキスト、配付プリント等を活用して講義中心の授業を行うが、実践研究の場面では研究班を編成してディベートやディスッカション、ロールプレイングなどを通して、実践的な指導力を養う機会をもつ予定である。	1．特別活動の意義 ① 学校教育と特別活動 ② 特別活動の歴史的変遷 2．特別活動の目標と内容 ③ 特別活動の目標と基本的性格 ④ 特別活動の指導計画・指導案の作成 ⑤ 特別活動の評価 ⑥ ホームルーム活動（学級）の特質と活動内容 ⑦ 生徒会活動の特質と活動内容 ⑧ 学校行事の特質と活動内容 3．特別活動の実践事例研究 ⑨ ホームルーム活動（学級）の指導と発展 ⑩ 生徒会活動の指導と展開 ⑪ 学校行事の指導と展開 ⑫ 部活動の指導と展開
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　文部省『高等学校学習指導要領解説特別活動』東山書房 参考文献　山口満編『特別活動と人間形成』学文社	試験、指導案、研究活動・発表、出席状況等で総合的に評価する

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	特別活動	担当者	安井　一郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講は、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、教科、道徳とともに教育課程の一領域を構成する特別活動の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。 講義概要 特別活動は、戦後教育の初期から、民主主義に基づく学校教育の重要な教育内容として計画され、実践されてきた。本講では、学校教育の大幅な改革が求められている今日において、子どもたちの自主的、実践的、集団的な活動である特別活動がますます重要な意味をもってくるとの認識に基づいて、それが児童期や青年期の人間形成においてどのような役割をもっているのか、その役割を十分に果たすためには児童・生徒の諸活動をどのように組織し、指導することが望ましいのか等の問題について検討を加える。	1　自分の特別活動体験を振り返る 2　現代の人間形成と特別活動(1) 3　現代の人間形成と特別活動(2) 4　教育課程における特別活動の位置と役割(1) 5　教育課程における特別活動の位置と役割(2) 6　児童生徒の社会性と特別活動の実践課題(1) 7　児童生徒の社会性と特別活動の実践課題(2) 8　特別活動の実践事例の検討(1) 9　特別活動の実践事例の検討(2) 10　特別活動の実践事例の検討(3) 11　話合い活動の実践(1) 12　話合い活動の実践(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
山口満編著『新版特別活動と人間形成』学文社、文部科学省『中学校学習指導要領』、その他は、講義の中で紹介する	出席、レポート、試験による総合評価

03 年度以降 02 年度以前	教育方法学	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
学習目標：教育職の重要性を再検討し、自身のコミュニケーション能力を確認する。 概要：コミュニケーション、教育・学習、教師の役割などを関連させながら、各自の教育方法のイメージを描けるよう支援する。併せて、グループによる討議やレポートを作成する。 ※詳細は開講時に明示する。	① プロローグ ② コミュニケーションと教育・学習 ③ 教師の役割 ④ 授業を問いかける ⑤ 視聴覚メディア ⑥ ビデオ教材による教育現場 ⑦ 校外専門家による授業 ⑧ グループ討論 ⑨ 授業設計 ⑩ 測定と評価 ⑪ 教育方法のイメージ ⑫ エピローグ
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐賀啓男編著（2002)『視聴覚メディアと教育』樹村房、￥1.800	出席、個人レポート、グループレポート、定期試験の総合

03 年度以降 02 年度以前	教育方法学	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、内容は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	教育方法学	担当者	安井　一郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講は、今日の学校教育、とりわけ授業をめぐる問題状況を踏まえながら、教育方法の研究、実践に関する今日的な課題について考察することを目的とする。 講義概要 毎日の授業をどのように工夫したらよいのか、子どもたちの個性を最大限に生かせるような指導とは何か等の問いに代表されるように、授業の内容とその方法に関する諸問題は、学校教育における最も重要な課題の一つである。本講では、教育方法学のうち、特に授業研究の問題に焦点をあて、授業研究を行ううえでの基本的な考え方はどのようなものであるのか、授業を成り立たせている構成要素は何か、授業を展開する具体的な方法とは何か等の問題について、各種資料やＶＴＲによる実際の授業記録などを用いながら多面的に検討を加え、授業研究に関する理解を深めていく。	1　自分の授業体験を振り返る 2　授業とは何か 3　教育実習生の授業 4　ベテラン教師の授業 5　教材研究とは何か 6　教材研究の事例の検討(1) 7　教材研究の事例の検討(2) 8　教材研究の事例の検討(3) 9　林竹二の授業論(1) 10　林竹二の授業論(2) 12　林竹二の授業論(3)) 12　授業研究の今日的課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
文部科学省『中学校学習指導要領』 その他は、講義の中で紹介する	出席、レポート、試験による総合評価

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	生徒指導法	担当者	小川　輝之

講義目的、講義概要	授業計画
教育機能の一つである生徒指導、教育相談、進路指導などに関する基本的原理について学ぶ。 また生徒指導、進路指導上の今日的諸課題についての具体的な検討を通して、課題解決に向けての方策を考えるとともに、実践への心構えや指導の在り方等について学ぶことにする。 配布プリント等を用いて講義中心の授業を行うが、授業内容によってはディベートやディスカッション、事例研究発表会など、様々な学習形態で授業を展開する予定である。	①　生徒指導の意義と機能、課題 ②　青年期と生徒理解 ③　生徒指導の方法原理と生徒指導の進め方 ④　生徒指導計画と組織・役割 ⑤　生徒指導と教育課程 ⑥　懲戒と体罰禁止 ⑦　健康・安全に関する指導 ⑧　在り方生き方教育と進路指導 ⑨　～⑫生徒指導に関する実践事例研究 ・　校則問題 ・　不登校、中途退学 ・　いじめ、飲酒、喫煙、盗み、性非行、薬物乱用
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考書　『学校における教育相談の考え方・進め方』 『個性を生かす進路指導を目指して』 『生徒指導の手引き』　(以上文部省)	試験、研究活動・発表、出席状況等により、総合的に評価する

03 年度以降 02 年度以前	生徒指導法	担当者	小川　輝之

講義目的、講義概要	授業計画
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	生徒指導法	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　生徒指導は児童・生徒の権利、自由と表裏一体の関係にある。したがって、生徒指導の効果的実践のためには学校教育法をはじめとする学校教育を支える法制度や子どもの権利条約等の理解が不可欠である。したがって、本講義ではいじめ、体罰といった生徒指導と密接に関連する学校病理や社会問題について、判例を題材として「自分がそのとき教師だったらどうするか」を考える契機とすることを目的とする。 **講義概要** 　授業計画にあるとおり、ひとつのテーマに関して概論的理解→グループディスカッション→判例動向という順で行う。 **受講にあたって** 　法律・判例を扱うが法学部学生のみを対象にしたものではないので、その他の学部学生も積極的に参加してほしい。	1．授業に関してのガイダンス・グループ分け 2．いじめ（1）概論・グループ討論 3．いじめ（2）判例 4．学校の荒れと暴力行為（1）概論・グループ討論 5．学校の荒れと暴力行為（2）判例 6．非行（1）概論・グループ討論 7．非行（2）判例 8．援助交際・であい系サイト（1）概論・グループ討論 9．　〃　（2）動向 10．児童虐待（1）概論・グループ討論 11．　〃　（2）動向 12．総合討論またはレポート
テキスト、参考文献	**評価方法**
坂田仰編著『法律・判例で考える生徒指導』	授業への参加、発言、レポート等を総合的に評価する。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	生徒指導法	担当者	林　尚示

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 生徒指導については、高校までの学校生活を通して、生徒の視点から内容が理解されている。しかし、教師の視点による生徒指導の内容や方法についての理解は必ずしも十分ではない。 そこで、この授業では、生徒指導という教師の仕事（教育作用）の重要性を認識するとともに、生徒指導の方法を知ることを目標としたい。 講義概要 生徒指導の意義と目的、生徒指導の内容・領域、生徒指導の組織と指導体制、生徒指導と教育課程との関連、児童生徒理解の進め方、実際の指導方法（集団指導法と個別指導法）、進路指導などについて取り上げる。	全 12 回の授業計画 1　生徒指導の意義と課題 2　生徒指導と教育課程との関連 3　生徒指導の組織と計画 4　児童・生徒理解Ⅰ 5　児童・生徒理解Ⅱ 6　集団指導法Ⅰ 7　集団指導法Ⅱ 8　個別指導法Ⅰ 9　個別指導法Ⅱ 10　問題行動の理解と指導Ⅰ 11　問題行動の理解と指導Ⅱ 12　進路指導
テキスト、参考文献	**評価方法**
教師養成研究会・江川　成編『生徒指導の理論と方法　改訂版』学芸図書、2000 年。	レポート

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	学校カウンセリング	担当者	鈴木　乙史

講義目的、講義概要	授業計画
カウンセリングとは、「相談」活動であり、対人援助の方法の一つである。 また学校は「教育」を通して個人の能力と人格発達を促進する場・機関である。 学校に専門的なカウンセリングを導入することにより、個人個人が異なる生徒・学生の成長を、より有効に促進していこうとする考えが現れるのは当然であろう。 講義ではカウンセリングの考え、基本的な技法、学校でのニーズと問題点、いじめ・不登校などの対処法などを、講義、実習、討論などを通して検討していく。	1．カウンセリングとは 2．話すことと聞くこと 3．カウンセラーの役割 4．学校という場・組織 5．生徒・学生の人格発達と課題 6．学校カウンセリングの効用と限界 7．カウンセリングの実際（1） 8．カウンセリングの実際（2） 9．カウンセリングの実際（3） 10．いじめ 11．不登校 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いず、適宜、参考文献一覧とプリントを配布する。	出席、授業中に出す課題、学期末レポートによる。

03 年度以降 02 年度以前	学校カウンセリング	担当者	鈴木　乙史

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	学校カウンセリング	担当者	瀧本　孝雄

講義目的、講義概要	授業計画
まず初めにカウンセリングについての理論、技法等について全般的に学習する。 次に学校カウンセリングの目標と方法に関して具体的に学習する。特にいじめ、校内暴力、非行、情緒障害等について、教育相談との関連において考察していく。さらに心理テストについて概説し、カウンセリングにおける心理テストの役割を考察したうえで、実際に心理テストを実施する。 まずカウンセリングとは何かということについて全体的な知識を深める。次に、それをもとに、学校でカウンセリングをどのように利用し、それによって生徒にどのような意味や効果があるかについて他方面から検討していく。それらをふまえて、現在学校で問題となっている事柄、あるいは生徒自身の悩みを具体的にどのように解決していくかを考察する。	1.カウンセリングの目的とその意義 2.カウンセリングの理論 3.カウンセリングの技法 4.学校カウンセリングの目的と特徴 5.学校カウンセリングの方法 6.中学生・高校生と学校カウンセリング 7.生徒の問題行動 8.生徒の精神衛生 9.現代青年の悩み 10.青年期の人間関係 11.心理テストの理論 12.心理テストの実施
テキスト、参考文献	**評価方法**
『カウンセリングへの招待』瀧本孝雄著 サイエンス社　2005	評価方法は講義、グループ・ワークに関しての小テスト、レポートおよび出席状況による。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	学校カウンセリング	担当者	森川　正大

講義目的、講義概要	授業計画
不登校、無気力、いじめ、自殺、非行、暴力行為など、教育現場には生徒の心にかかわる問題が山積している。また、学級崩壊、教師の問題行動など、教師の資質や心のあり方が問われることも多い。 この科目は、学校カウンセリングの基礎的知識と技法を身につけることにより、教師としての資質向上を図ることを目標とする。 授業回数が限られているので、カウンセリングの理論学習は時間外の自習に期待し、教室においては、できるだけカウンセリングの技法や実際についての体験学習を取り入れて、カウンセリングを実感できるよう工夫したい。 内容の柱は、以下のとおり。 ① カウンセリングと学校カウンセリング ② 生徒理解と援助のポイント ③ カウンセリングの実際 ④ カウンセリングの理論と技法 ⑤ カウンセリングと心理テスト ⑥ 保護者、校内組織その他の活用と連携	1 カウンセリングと学校カウンセリング 2 カウンセラーの役割、教師の役割 3 生徒理解と援助のポイント(1)：紙上応答実習 4 生徒理解と援助のポイント(2)：応答の点検 5 カウンセリングの実際(1)：テープを聞く 6 カウンセリングの実際(1)：問題の焦点は？ 7 カウンセリングの理論と技法(1) 8 カウンセリングの理論と技法(2) 9 キャリアカウンセリングの基礎 10 カウンセリングと心理テスト 11 保護者への援助：コンサルテーション 12 校内組織その他の活用と連携／まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは用いない。プリントによる。参考文献は必要に応じて示す。	出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など)、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	総合演習	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
人類のかかえている諸課題について、多面的な視点から分析・検討する能力を養うとともに、これらの課題について個別教科の枠を超えて総合的な学習の時間で扱う方法を考える。 本授業では、身近な問題を事例としながら考えていく。講義というよりは受講者が、グループ活動等で調べ、さまざまな形で発表するという形式で進める。	1　学校教育における総合的学習の意義 2　獨協大学から世界の課題を考える（環境） 3　グループワーク（フィールドワーク） 4　グループワーク 5　グループワーク 6　発表 7　獨協大学から世界の課題を考える（社会） 8　グループワーク（体験学習） 9　グループワーク 10　グループワーク 11　発表 12　まとめ **＊春か秋の総合演習体験学習に必ず参加すること**
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に個別に示される。	出席・プレゼンテーション・レポート等を総合的に判断する。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	総合演習	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　現在、自律的学校経営を始めとした教育改革が推進されており、各学校で特色づくりが行われている。たとえば足立区のある小学校では学校理事会による学校経営が行われ、また越谷市のある小学校では道徳教育の研究が継続されている。高等学校でも三者協議会や生徒による授業評価を行っている学校が埼玉県内でも確認されている。本講義ではそれらの特色ある学校づくりについて、各自興味のある分野を取り上げ、グループごとに調査や発表を通して、理解を深め、学校づくりのあり方を模索することを目的とする。 **講義概要** 　上記のような目的のもと、グループごとに文献調査・訪問調査と発表・ディスカッションを通して半期で一冊の報告書を作成することとする。 **受講にあたって** 　ディスカッションや訪問調査に積極的に参加してほしい。また、本演習の概論編となるので、「教育制度」もあわせて履修を薦める。	1．ガイダンス 2．共通文献購読 3．～関心別のグループ分けと課題設定 4．～6．各自文献購読、発表 7．～12．訪問調査ほかを経て報告書の作成 **＊春か秋の総合演習体験学習に必ず参加すること**
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に指示	授業や調査への参加、報告書を総合的に評価する。

03 年度以降 02 年度以前	総合演習	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	総合演習	担当者	渋谷　英章

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　現代的な課題の中から、「国際理解」をとりあげ、資料収集、討議、発表などを通じて、「総合的な学習の時間」を自ら体験することを通して、その意義を理解するとともに、情報収集・情報検索やグループ学習の方法、プレゼンテーションの技術などの総合学習の指導方法を修得する。 講義概要 ①「総合的学習の時間」の位置づけと「国際理解」の基本的課題について提示する。 ②「世界の子どもたちと日本の子どもたちの比較」を課題とし、トピックないしは対象地域に応じてグループを編成する。 ③各自が外国の子どもたちの現状について情報収集を行い、その内容をグループのなかで発表し、討議を行う。 ④日本の子どもたちの現状を外国の子どもたちと比較しながら、各自が情報収集を行い、グループ内で発表・討議を行う。 ⑤両者の比較検討を行い、グループごとにその検討の結果を発表する。 ⑥全体討議を行う。 ⑦このほか、参加型のアクティヴィティを体験する。	1　オリエンテーション 2　各自の興味関心の発表とグループ編成 3　グループによる計画の策定 4　グループ・ワーク 5　グループ・ワーク 6　全体での経過報告とアクティヴィティ 7　グループ・ワーク 8　グループ・ワーク 9　グループ・ワーク／ディスカッション 10　グループ発表 11　グループ発表 12　全体討議 ・グループ・ワークでは、グループでの活動記録と、各自が発表に用意した当日の資料を毎回提出する **＊春か秋の野外体験学習に参加すること**
テキスト、参考文献	**評価方法**
特になし	グループ発表と自己評価等の個別最終レポート、ならびに、出席によって評価する。

03 年度以降 02 年度以前	総合演習	担当者	渋谷　英章

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	総合演習	担当者	安井　一郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　本講は、教師を志望する学生が、今日の小・中・高等学校の教育において求められている「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身に付けるために、課題解決的な体験学習のプランの作成とその実施を行うことを目的とする。 講義概要 　本講では、中学校における課題解決的な体験学習を想定し、生徒が日々の生活や学習で直面する現代的な課題に対応した学習活動のプランの作成、そのプランに基づく模擬的な学習活動の実践、体験学習終了後の学習評価及びグループ発表を行う。	1　総合演習の意義とねらい、グループ分け 2　各グループにおけるテーマの設定(1) 3　各グループにおけるテーマの設定(2) 4　グループ研究(1) 5　グループ研究(2) 6　グループ研究(3) 7　グループ研究(4) 8　グループ研究(5) 9　グループ研究(6) 10　体験学習 11　体験学習の評価・反省(1) 12　体験学習の評価・反省(2) **＊春か秋の総合演習体験学習に必ず参加すること**
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義の中で紹介する	出席、レポート、試験による総合評価

03 年度以降 02 年度以前	総合演習	担当者	安井　一郎

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	教育実習論Ⅰ(事前指導) 教育実習論(事前・事後指導)	担当者	小川　輝之

講義目的、講義概要	授業計画
教職課程教育のまとめであり、最大の関門でもある「教育実習」について、その意義と目的、内容と実際について学ぶ。 また、学校教育が抱えている今日的な課題や教育改革の動向などについて検討し、それを踏まえた指導の在り方を考察するなど、教育実習の事前指導としての役割が十分果たせるよう工夫したい。 教育課題検討会や学習指導案の作成、模擬授業など受講者中心の授業になるので積極的･主体的な授業参加を期待する。	１．教育実習の意義 ①　教育実習の意義と目標 ②　教育実習の形態 ２．教育実習の内容 ③　学校運営組織と校務分掌 ④　生徒理解と生徒指導 ⑤　教育課程と学習指導要領 ⑥　学習指導と教材研究 ⑦　道徳、特別活動、総合的な学習の時間の指導 ３．教育実習の実際 ⑧　教育実習の日々 ⑨　学習指導案の作成 ⑩～⑪学習指導の実際（授業実践事例研究） ⑫　教師としての勤務と実習生 ４．現代の教育課題と教師の役割 ⑬　学校の課題と教師の役割
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　『教育実習の指針』　(獨協大学)	発表、学習指導案、模擬授業、レポート、出席状況等により総合的に評価する

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	教育実習論Ⅰ(事前指導) 教育実習論(事前・事後指導)	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義は、教育実習の意義や目的、概要についての理解を深めるとともに、授業案の作成や、各種授業機器の使用法、授業法などについて習得することで教育実習に向けての準備とすることを目的とする。 **講義概要** 授業を前半・後半にわけてそれぞれ講義と実践にすることとする。 前半では、教育実習の意義や目的、概要などについての理解を深めるための講義を行う。 後半では、実際の授業案の作成やそれをもとにしたグループ討論、模擬授業を行って教育実習の際に役立つようにする。 また随時教育実習を終えた学生により、体験を話してもらう機会を設ける予定である。 **受講に当たって** グループ討論やディスカッション等、学生参加型の授業をする予定であるので、遅刻や無断欠席等はできる限り慎んでほしい。また、ディスカッションや模擬授業等、積極的に参加・発言してほしい。	1．授業に関してのガイダンス 2．戦前・戦後の教員養成と教育実習 3．現在の教員養成と教育実習 免許制度・教員養成カリキュラムにおける実習 4．教育実習の意義と位置 インターンシップとしての教育実習 5．教育実習の内容と様式 6．～7．指導案の作成 8．～10．模擬授業 11．～12．全体討論
テキスト、参考文献	**評価方法**
獨協大学『教育実習の指針』	ディスカッション、模擬授業、指導案等と最終レポートを総合して評価する。

03 年度以降 02 年度以前	教育実習論Ⅰ（事前指導） 教育実習論（事前・事後指導）	担当者	安井　一郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を行うことにより、教育実習に向けての準備を進めることを目的とする。 講義概要 教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習の事前指導として、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする。また、実習生としての心構え、実習期間中の留意点等についてもふれ、教育実習に関する理解を深めていく。教育実習終了後には、自らの実習体験を振り返り、今後の学習課題を明らかにする。	1　教育実習とは何か 2　教育実習の概要 3　授業を見る(1) 4　授業を見る(2) 5　授業を見る(3) 6　授業のスキル 7　授業の評価 8　学習指導案の作成(1) 9　学習指導案の作成(2) 10　模擬授業(1) 11　模擬授業(2) 12　教育実習期間中の諸注意
テキスト、参考文献	**評価方法**
獨協大学『教育実習の指針』 その他は、講義の中で紹介する。	出席、レポート、試験による総合評価

03 年度以降 02 年度以前	教育実習論Ⅰ（事前指導） 教育実習論（事前・事後指導）	担当者	安井　一郎

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降	教育実習論Ⅱ(事後指導)	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義は教育実習の事後指導として、教育実習の反省と課題の析出を行い、解決法を考えていくことを通して、教師としての資質の向上を目指す。 **講義概要** 本講義では、まず実習経験者にレポートを作成してもらい、研究授業の際の指導案を提出してもらう。また(可能であればビデオで撮影した授業を見ることも考えている)それらを共有することから問題点やそのとき、どうすればよかったか、似たような経験をしていればどのようにしたか、等の課題の析出を行う。 次にその課題について、一定の解決策等を踏まえたうえで、再度訂正した形の指導案を作成し、模擬授業を行う。 **受講にあたって** 学生参加型の授業を予定しているので、積極的に参加・発言してほしい。また、教育実習論（事前・事後指導）の学生とともに模擬授業を行うなどことなども考えている。	1．授業に関してのガイダンス 2．教育実習体験の発表 3．実習レポートの作成 4．体験・レポート・ビデオによる課題析出 5．課題の解決案（1）グループ討論を通して 6．課題の解決案（2） 7．課題の解決案（3） 8．よりよい授業案の作成 9．～11．模擬授業 12．総合討論またはレポート
テキスト、参考文献	**評価方法**
教育実習を考える会編（2000）『教育実習の常識 ――事例に基づく必須 66 項――』蒼丘書林	討論への参加等と最終レポートを総合的に評価する。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降	教育実習論Ⅱ（事後指導）	担当者	安井　一郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　本講は、教育実習の事後指導として、教育実習の反省・フォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。 講義概要 　本講では、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図ることによって、学校教育に関する理解を深めていく。	1　教育実習の体験の発表 2　教育実習レポートの作成 3　発問 4　板書 5　各種資料及び機器の活用 6　生徒とのコミュニケーション 7　授業評価 8　学習指導案の作成(1) 9　学習指導案の作成(2) 10　模擬授業(1) 11　模擬授業(2) 12　近年の教育改革の現状と課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
『教育実習の指針』獨協大学、その他は、講義の中で紹介する	出席、課題、レポートによる総合評価

03 年度以降 02 年度以前	介護ボランティアの理論と実践	担当者	小川　孔美

講義目的、講義概要	授業計画
最初の授業で指示します。	最初の授業で指示します。
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	介護ボランティアの理論と実践	担当者	小川　孔美

講義目的、講義概要	授業計画
最初の授業で指示します。	最初の授業で指示します。
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	日本史概説Ⅰ	担当者	會田　康範

講義目的、講義概要	授業計画
近年の日本史研究では，日本列島に展開した多角的，多面的な歴史像の捉えなおしが図られ，今日では一定の成果を確認することができる。こうした研究状況に基づき，前近代を素材に文字史料の読み直しとともに非文字史料に着目し，それぞれの時代像や歴史認識を豊かにするために重要と思われるテーマを講義していきたい。 極めて限られた時間数の中での講義のため，歴史経過にそって通史的に講義することは必要最低限にとどめるとともに，取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があることも予め了承しておいていただきたい。高校までの歴史学習で習得した歴史の流れをふまえて授業にのぞむことが授業を退屈にさせないカギとなるだろう。	1．史料を科学する 2．文字史料と非文字史料 3．弥生のムラ ―古代の社会①― 4．ワカタケル大王の時代―古代の社会②― 5．中世の百姓世界 ―絵図にみる中世の村①― 6．中世の対外認識 ―中世日本図をよむ―① 7．中世の対外認識 ―中世日本図をよむ―② 8．中世都市図と民衆・権力 ―洛中洛外図をよむ①― 9．中世都市図と民衆・権力 ―洛中洛外図をよむ②― 10. 近世の国絵図からよむ江戸の社会① 11. 近世の国絵図からよむ江戸の社会② 12. まとめ なお，上記の計画は授業展開により変更されることもある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストは使用せず，プリントを配布する。 参考文献は講義の中で紹介する。	試験とともに授業状況に応じて課す小レポートなどをもとに，総合的に評価する。

03 年度以降 02 年度以前	日本史概説Ⅱ	担当者	會田　康範

講義目的、講義概要	授業計画
日本史概説Ⅰに続くこの講義では，近現代を素材としていく。その際，対外関係を基軸に考察していくが，その前提となる前近代の対外関係についても扱うことになる。この講義を通じて，現代の国際化社会における日本のあり方，さらには歴史教育のあり方などをめぐって受講生とともに考えていきたい。	1．古代・中世の自国認識と他国認識① 2．古代・中世の自国認識と他国認識② 3．日本型華夷秩序の形成・展開① 4．日本型華夷秩序の形成・展開② 5．「鎖国」論をめぐって① 6．「鎖国」論をめぐって② 7．近代の対外認識① 8．近代の対外認識② 9．近代の対外認識③ 10. 国民国家形成の世紀を問う① 11. 国民国家形成の世紀を問う② 12. まとめ（エピローグ的に） ―歴史学と歴史教育― なお，上記の計画は授業展開により変更されることもある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストは使用せず，プリントを配布する。 参考文献は講義の中で紹介する。	試験とともに授業状況に応じて課す小レポートなどをもとに，総合的に評価する。

03年度以降 02年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03年度以降 02年度以前	外国史概説Ⅰ	担当者	兼田　信一郎

講義目的、講義概要	授業計画
最近の中国事情を紹介し、その後中国の歴史、特に新石器時代から唐帝国滅亡までの歴史を概観する。 １９９０年代以降の経済発展とそれに伴う社会の急激な変貌は、従来の中国社会像を根底から揺さぶり、我々に新たな中国認識の構築を迫っているように思える。 一体、中国社会とはどのような社会なのか？ 中国古代史を概観しながらこの問題の一端に触れて見たい。	1，オリエンテーション 2，現代中国事情（地理的概況など） 3，現代中国事情（歴史的に見た中国社会の特徴） 4，中華文明の形成（新石器時代殷・周） 5，氏族社会の崩壊と小農民の登場（春秋・戦国） 6，皇帝支配と郷里社会（秦漢帝国） 7，豪族の台頭と郷里社会の変質（後漢・三国） 8，農民支配の再編１（魏晋） 9，農民支配の再編２（南北朝） 10, 律令国家の登場（隋・唐） 11, 唐帝国の滅亡 12, まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
堀敏一著『中国通史』（講談社学術文庫） 他は講義中に配布するプリント等による。	出席状況と試験により評価する

03 年度以降 02 年度以前	外国史概説Ⅱ	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ 本講座は、歴史学と歴史教育の接点、そして両者の関係の仕方を、最新の研究成果をを念頭におきながら概説的に把握しつつ、歴史の教え方についてどのように考えるべきかをヨーロッパ古代史を中心に理解することを目的とする。 ＜講義概要＞ 講義はビデオやＤＶＤなど映像資料を使いながら概説的に説明するが、積極的な議論が湧きあがることも期待したい。授業では、アト･ホームな雰囲気の中にも、何よりも歴史の面白さと厳しさを伝えていきたいと考えている。	１．はじめに（歴史を学ぶことの意味） ２．ギリシア先史文明と東地中海世界 （エーゲ文明とトロイア戦争の歴史性） ３．ポリス世界の成立（歴史の連続性と断絶性） ４．アテナイの興隆とペルシア戦争（アテナイ民主政） ５．ポリス社会の盛衰（アテナイとスパルタ） ６．アレクサンドロスとヘレニズム （「ヘレニズム」の歴史的意義） ７．ローマの発展 （イタリア統一から地中海制覇まで） ８．ローマの市民社会 （その１：家と家父長権） ９．ローマの市民社会 （その２：市民と政治） １０．ローマ帝国の構造（「ローマの平和」の実像） １１．古代社会の終焉と新しい時代の胎動 （ローマ帝国衰亡論） １２．「まとめ」に代えて
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用せず、史･資料をプリントとして配布する。また、参考文献は初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布する。	期末のレポート、小レポート、出席点を加味して総合的に評価する。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	地理学概説 I	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
自然環境と人間のかかわりについて、地理学的観点から具体的な事例をもとに考察する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な自然環境の見方を身につける。 本講義では、身近な地域の環境を自然地理学の観点から分析する基礎として、まず地形図の利用法を扱う。その後、関東地方の自然地理的な特色とその基盤の上に立った人々の生活について説明する。 ＊講義科目ではあるが、実習等を行う予定である。色鉛筆、定規等指示された用具を準備すること。高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。	1.オリエンテーション（講義の概要） 2.地形図利用の基礎(1)　地形図の基礎知識 3.地形図利用の基礎(2)　距離と面積、等高線と地形 4.地形図利用の基礎(3)　土地利用を読む 5.東京・関東の地形的特色(1)山の手と下町 6.東京・関東の地形的特色(2)武蔵野台地 7.東京・関東の地形的特色(3)荒川と利根川の低地 8.東京・関東の地形的特色(4)東京湾 9.東京・関東の地形的特色(5)関東山地 10.東京・関東の気候的特色(1)気候システムと気候のスケール 11.東京・関東の気候的特色(2)観測データと景観から気候を読む 12.東京・関東の気候的特色(3)都市気候
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。	試験とレポート（小課題）、出席状況

03 年度以降 02 年度以前	地理学概説 II	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
地理学の基本的概念を理解し、これらの概念を用いて、どのような研究が行われているかを展望する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な人文地理学の見方・考え方を身につける。 本講義では、地理的知識の拡大と地理学の歴史を述べた後、地理学の主要概念のうち「環境」「景観」「場所と立地」「伝播」について解説する。さらに、人文地理学のいくつかのテーマを取り上げ理解の深化を図る。 ＊高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。	1.地理学の歴史（１） 2.地理学の歴史（２） 3.地理学の歴史（３） 4.地理学の主要概念（１）環境 5.地理学の主要概念（２）景観 6.地理学の主要概念（３）場所と立地（１） 7.地理学の主要概念（４）場所と立地（２） 8.地理学の主要概念（５）伝播 9.地理学のトピックス（１）メンタルマップ 10.地理学のトピックス（２）時間地理学 11.地理学のトピックス（３）地理情報システム 12. 地理学のトピックス（４）教育と地理
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。	試験とレポート（小課題）、出席状況

03 年度以降 02 年度以前	地誌学概説Ⅰ	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。地誌学における主要概念である「地域」と地域分析法を理解した上で、日本を事例地域として地誌学的見方を身につけることを目的とする。 本講義では、地誌学の方法、「地域」概念について講義した後、地域を扱う上で必要な文献や統計の収集法や利用法、統計分析など地域分析の手法を習得する。その上で、日本地誌を扱う。　＊受講者は地図帳を持参すること。講義科目であるが、実習を含むので、色鉛筆、電卓等授業中に指示された用具は各自用意すること。 高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。	1. オリエンテーション―系統地理学と地誌学 2.「地域」の概念 3. 地域分析の基礎（1）文献・資料・統計の所在と検索 4. 地域分析の基礎（2）統計の利用 5. 地域分析の基礎（3）統計の地図表現 6. 地域分析の基礎（4）空間分析 7. 地域分析の基礎（5）地域構造 8. 日本地誌（1）自然環境 9. 日本地誌（2）風土と地域文化 10. 日本地誌（3）人口分布と人口構造 11. 日本地誌（4）産業と地域変容 12. 日本地誌（5）日本の地域構造
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。	試験とレポート（小課題）、出席状況

03 年度以降 02 年度以前	地誌学概説Ⅱ	担当者	秋本　弘章

講義目的、講義概要	授業計画
特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。本講義では、世界の地域構造を概観したのち、ヨーロッパを事例地域としてとりあげ、地誌的見方を身につけることを目的とする。 ＊受講者は地図帳を持参すること。 高等学校等で「地理」を履修していないものは、教科書等を購入し、自習しておくこと。	1. 世界認識の基礎 2. 世界の地域構造とその変容（1）自然的基盤 3. 世界の地域構造とその変容（2）文化圏 4. 世界の地域構造とその変容（3）国家と経済 5. ヨーロッパ地誌（1）ヨーロッパとは 6. ヨーロッパ地誌（2）自然景観 7. ヨーロッパ地誌（3）文化の諸相（1） 8. ヨーロッパ地誌（4）文化の諸相（2） 9. ヨーロッパ地誌（5）文化の諸相（3） 10. ヨーロッパ地誌（6）国家とＥＵ 11. ヨーロッパ地誌（7）産業と経済 12. ヨーロッパ地誌（8）地域構造
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。	試験とレポート（小課題）、出席状況

03 年度以降 02 年度以前	法律学概説 Ⅰ 法律学概説（通年）	担当者	内山　良雄

講義目的、講義概要	授業計画
法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在し、社会内で生起する紛争の未然防止・解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁でいることはありえません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となります。しかし、そのためには、法的素養を備えていることが強く求められるのです。 そこで本講義では、最初に法の基本概念を解説したうえで、憲法に規定された基本原理や人権についての議論、および社会のさまざまな場面と法の関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。	1．ガイダンス 2．法とは何か 3．法学とは何か 4．法の学び方 5．法体系の枠組みと法の分類 6．憲法の基本原理（1）－国民主権－ 7．憲法の基本原理（2）－平和主義、基本的人権尊重主義－ 8．国の統治機構 9．平等権 10．自由権（1）－精神的自由・経済的自由－ 11．自由権（2）－人身の自由－ 12．社会権 ＊　受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
大谷實編著『エッセンシャル法学［第４版］』成文堂	定期試験の答案に基づいて評価します。

03 年度以降 02 年度以前	法律学概説 Ⅱ 法律学概説（通年）	担当者	内山　良雄

講義目的、講義概要	授業計画
法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在し、社会内で生起する紛争の未然防止・解決に指針を与え、その平穏・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁でいることはありえません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となります。しかし、そのためには法的素養を備えていることが強く求められるのです。 そこで本講義では、社会のさまざまな場面と法の関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。法の基本的な事柄は、「法律学概説Ⅰ」で取り扱いますので、「法律学概説Ⅰ」を受講してから本講義を受講することを推奨します。	1．裁判の仕組み 2．財産関係と法（1） 3．財産関係と法（2） 4．経済取引と法（1） 5．経済取引と法（2） 6．家族と法 7．犯罪・刑罰と法 8．労働と法 9．事故と法 10．社会保障・社会福祉 11．医療と法（1）－医療提供の理念－ 12．医療と法（2）－医療過誤－ ＊　受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
大谷實編著『エッセンシャル法学［第４版］』成文堂	定期試験の答案に基づいて評価します。

03 年度以降 02 年度以前	政治学概説Ⅰ 政治学概説（通年）	担当者	杉田　孝夫

講義目的、講義概要	授業計画
政治社会の構成主体である市民のための政治学という観点から講義する。同時に公務員試験科目や教職科目としての政治学の基本事項の修得を意識した構成である。 春学期は、現代国家の統治の正統性にかかわる諸原理と国際政治の諸原則と国際制度について講義する。 テキストの自主的な予習・復習を受講条件とする。	1　デモクラシー（１８章） 2　自由と自由主義（３章） 3　政治の論理と市場の論理（２章） 4　国家と権力（５章） 5　福祉国家（４章） 6　市民社会と国民国家（６章） 7　国内社会と国際関係（７層） 8　国際関係における安全保障（８章） 9　国際関係における富の配分（９章） 10　国際制度（１４章） 11　対外政策（１６章） （　）は教科書の該当する章
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 New Liberal Arts Selection 政治学（有斐閣、2003）	学期末試験による

03 年度以降 02 年度以前	政治学概説Ⅱ 政治学概説(通年)	担当者	杉田　孝夫

講義目的、講義概要	授業計画
政治社会の構成主体である市民のための政治学という観点から講義する。同時に公務員試験科目や教職科目としての政治学の基本事項の修得を意識した構成である。 秋学期は、デモクラシーの政治体制のもとでの統治システムと政治過程の主要な論点について講義する。 テキストの自主的な予習・復習を受講条件とする。	1　議会（１０章） 2　政府（執政部）（１１章） 3　官僚制（１２章） 4　中央地方関係（１３章） 5　政策過程１５章） 6　制度と政策（１７章） 7　投票行動と政治の心理（１９章・２０章） 8　世論とメディア（２１章） 9　選挙と政治参加（２２章） １０　利益団体と政治（２３章） １１　政党（２４章） （　）は教科書の該当する章
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 New Liberal Arts Selection 政治学（有斐閣、2003）	学期末試験による

03 年度以降 02 年度以前	社会学概説 I 社会学概説（通年）	担当者	圓岡　偉男

講義目的、講義概要	授業計画
われわれは、日々様々な他者とかかわりを持ちながら日常生活を送っている。社会学とはこのような他者との関係に焦点をあてた学問であるといえる。しかし、現代において、この他者との関係は一様なものではなく、複雑で錯綜したものとして現れることになる。それは、とりもなおさず、現代社会の複雑さにつながってゆく。 本講義は、初学者を対象に、社会学の基礎概念、および基本的視座の理解を目指す。さらに、それに加え、現実的な事例として現代日本社会の抱えている問題について検討してゆく。これらをとおして、社会というものを考察するための基礎的能力を養うことをその目的としている。	1　イントロダクション 2　社会学の基礎概念 3　古典的社会学の理論（1） 4　古典的社会学の理論（2） 5　古典的社会学の理論（3） 6　社会集団論 7　社会変動論 8　家族論 9　都市論 10　現代社会論 11　社会調査論 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義時に指示する。	出席、講義時に課す小レポート、定期試験を総合して評価する。

03 年度以降 02 年度以前	社会学概説 II 社会学概説（通年）	担当者	圓岡　偉男

講義目的、講義概要	授業計画
われわれは、社会のなかに生き、社会を形成していると同時に社会によって形成されている。そして、このようなことから社会を知ることは人間自身を知るための契機ともなる。その一方で、社会は個々人を離れ独自の性質を持ったものとして人々に関与する。それは個々人に還元したのでは説明の付かない事態がそこにあることを意味する。社会学はこのような個々人に還元できない事態をその研究対象にしているのである。 本講義は、社会学の基礎を学んだ者を対象に、さらに深い視点から社会について学ぶ場を提供する。しかし、本講義は、単純に専門性の高い事柄を扱うというよりも、初学者がさらなる理解を深めるための講義となる。すなわち、社会学の基礎概念、および基本的視座の徹底した理解をここでは目指している。さらに、それに加え、現代日本社会の抱えている問題についてある程度テーマを限定して集中した形で事例を検討してゆく。これらをとおして、社会というものを理解するための徹底した基礎的能力を養うことを第一の目的としている。	1　イントロダクション 2　子どもの発達と逸脱行為 3　子どもの教育と家族の問題 4　女性の社会進出と社会の現実 5　福祉の現実とその諸問題（1） 6　福祉の現実とその諸問題（2） 7　少子高齢化の諸問題（1） 8　少子高齢化の諸問題（2） 9　少子高齢化の諸問題（3） 10　生と死をめぐる諸問題（1） 11　生と死をめぐる諸問題（2） 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
木戸功・圓岡偉男編『社会学的まなざし』新泉社。	出席、講義時に課す小レポート、定期試験を総合して評価する。

03 年度以降 02 年度以前	哲学概説Ⅰ 哲学概説(通年)	担当者	河口　伸

講義目的、講義概要	授業計画
昨今、哲学の復権が唱えられ自分探しの一環として哲学が一種の流行となっているが、それらをも包摂し相対化する視点こそが、今求められている。 一般教養としての哲学史的知識も教職に必要であるが、教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。 西欧思想を歴史的に辿ることが、本講義の概要であるがそこには二つの偏りが存在していることを意識しつつ論じて行きたい。 西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りである。哲学をギリシア起源の「学」としてのみ捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。 個々の思想家の経歴や思想の細部の紹介は、テキストに譲り、彼らがその思想を形成した動機や課題、歴史的位置付けなどを重視して論じる。	1　哲学とは何か（1） 2　ソクラテス以前 3　ソクラテス 4　プラトン 5　アリストテレス 6　スコラ哲学 7　科学革命 8　ルネサンスと宗教改革 9　合理論と経験論（1） 10　合理論と経験論（2） 11　社会契約説 12　啓蒙主義
テキスト、参考文献	**評価方法**
『精神史としての哲学史』角田幸彦編　東信堂 文献は随時紹介する	レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は２／３以上必要)

03 年度以降 02 年度以前	哲学概説Ⅱ 哲学概説(通年)	担当者	河口　伸

講義目的、講義概要	授業計画
（春学期に同じ）	1　カント 2　ドイツ観念論 3　キルケゴール 4　ニーチェ 5　マルクス 6　フッサール・ハイデッガー・ 7　ヤスパース（1）（2） 8　歴史主義・解釈学 9　ウィトゲンシュタイン 10　構造主義 11　言語哲学 12　哲学とは何か（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
『精神史としての哲学史』角田幸彦編　東信堂 文献は随時紹介する	レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は２／３以上必要)

03 年度以降 02 年度以前	倫理学概説 I 倫理学概説（通年）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければいけない倫理学の基礎的知識を得るために、東洋及び西洋の古代から現代に至る倫理学の学説を概説する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを、概説の区切りにするディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。倫理学概説 I では、近世までの倫理学説を取り上げる。倫理学概説 II では、近世以降現代まで取り上げるので、I と II とを履修することが望まれる。	1．古代中国の倫理思想（老子、荘子、孔子、孟子） 2．古代中国の倫理思想（告子、墨子、荀子、韓非子） 3．古代ギリシャの倫理思想（ソクラテス、プラトン、アリストテレス） 4．古代ギリシャ、ローマの倫理思想（エピキュロス、ストア、キケロ、セネカ、エピクテトス、マルクス・アウレリウス） 5．中世の倫理思想（アウグスチヌス、アベラール、トマス・アクィナス、オッカム、ドンス・スコトゥ 6．ディスカッション（人間とは何か） 7．宗教と倫理（仏教倫理と儒教倫理） 8．宗教と倫理（キリスト教倫理とイスラム倫理） 9．近世の倫理思想（デカルト、ホッブス、スピノザ、ライプニッツ、ベンサム、グリーン） 10．近世の倫理思想（ヒュームとカント） 11．近世の倫理思想（カントとヘーゲルとキェルケゴール） 12．ディスカッション（人間として何をすべきか、幸福と自然）
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	出席状況とディスカッションへの貢献度と試験

03 年度以降 02 年度以前	倫理学概説 II 倫理学概説（通年）	担当者	松丸　壽雄

講義目的、講義概要	授業計画
中学、高校の社会科担当の教師が身につけなければいけない倫理学の基礎的知識を得るために、東洋及び西洋の古代から現代に至る倫理学の学説を概説する。しかしながら、単に知識を身につけるだけでなく、倫理道徳とは何か、および、中学校、高等学校で実際に生徒と接したときに、生徒から突きつけられる道徳あるいは倫理に関する問題や質問に、どのように誠意を持って、一人の人間として答えるのか、答えられるのかを、概説の区切りにするディスカッションを通して、実地に自分で考え、それを他の参加者と討論しあいながら、自分の立場および態度を、自分から気付き、自分から掴み取るようにする。倫理学概説 I では、近世までの倫理学説を取り上げる。倫理学概説 II では、近世以降現代まで取り上げるので、I と II とを履修することが望まれる。	1．日本の倫理思想（儒学と明治思想と和辻哲郎） 2．進化論と倫理思想（ダーウィン、スペンサー、ミル、ブラドレー、ロイス） 3．ニーチェとニヒリズム 4．私と汝（ブーバーと西田幾多郎） 5．社会主義倫理と資本主義倫理 6．ディスカッション（ひとは何故ひとを殺してはいけないのか） 7．自然科学と倫理 8．技術と倫理 9．医療と倫理 10．環境と倫理 11．自然とは、地球とは 12．ディスカッション（いのち）
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示	出席状況とディスカッションへの貢献度と試験

03 年度以降 02 年度以前	宗教学概説Ⅰ 宗教学概説(通年)	担当者	河口　伸

講義目的、講義概要	授業計画
戦後教育が宗教について意識的に或いは無意識的に避け続けてきた為、現代の日本人は宗教に関して一種の「真空状態」に置かれており、そこから様々な問題が昨今生じている。 そこで本講義は、宗教学の学的体系性よりも、むしろ諸宗教の歴史と現在についての一般的概括的知識を得られるようにすることを重点とする。 更に教職科目であることにも鑑み、宗教教育のあり方についても論じたい。 前期は洋の東西、今昔を問わず世界史上の諸宗教の歴史と現在について説明し、宗教の果たして来た役割・問題点について考えてもらう。	1　宗教とは何か（1） 2　神話と宗教 3　ユダヤ教 4　キリスト教（1） 5　キリスト教（2） 6　キリスト教（3） 7　イスラム教（1） 8　イスラム教（2） 9　ヒンドウ教 10　仏教（1） 11　仏教（2） 12　仏教（3）
テキスト、参考文献	**評価方法**
『世界がわかる宗教社会学入門』橋爪大三郎著　筑摩書房 文献は随時紹介する	レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は２／３以上必要)

03 年度以降 02 年度以前	宗教学概説Ⅱ 宗教学概説(通年)	担当者	河口　伸

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的は春学期に同じ。春学期の続きの後に秋学期は、日本の宗教の歴史と、日本人の宗教的心性の形成にまず触れ、その後に宗教的諸概念についての理解を深め、日本や欧米の先進国において宗教集団が現在持っている意義や問題点を論じた上で、宗教教育の是非・可能性を論じる。	1　儒教 2　道教 3　日本の宗教の歴史と現在（1） 4　日本の宗教の歴史と現在（2） 5　日本の宗教の歴史と現在（3） 6　宗教上の諸概念(儀礼・戒律・修行など)（1） 7　宗教上の諸概念(儀礼・戒律・修行など)（2） 8　宗教団体の諸問題（1） 9　宗教団体の諸問題（2） 10　学校教育と宗教（1） 11　学校教育と宗教（2） 12　宗教とは何か（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
『世界がわかる宗教社会学入門』橋爪大三郎著　筑摩書房 文献は随時紹介する	レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は２／３以上必要)

03 年度以降 02 年度以前	心理学概説 I 心理学概説（通年）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
この講義を通して心理学の基本的知見について理解を深めていただきたい。そこで，まず心理学の歴史的展開をみながら，現代においても大きな影響力をもつ心理学の重要な概念や理論を概説していく。さらに，春学期では人間の発達についてみていく。各発達期の特徴と発達課題について述べ，最後に発達と学習に関する問題を講義していく。 受講者の人数にもよるが，受講者に随時レポートなどの発表，発表に基づく討論を求める予定でいる。	授業計画は以下のとおり。 1．心理学の領域 2．心理学のあゆみ①：哲学的心理学と近代の心理 3．心理学のあゆみ②：現代心理学の誕生 4．心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5．心理学のあゆみ④：精神分析理論 6．発達①：発達の規定因 7．発達②：乳幼児期の発達 8．発達③：児童期・青年期の発達 9．発達④：青年期以降の発達 10．発達⑤：個の発達と学習 11．学習理論①：条件づけ理論 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。必要な資料は配付する。参考文献は授業で紹介する。	授業への出席とレポート，授業への積極的参加度（発表など）により総合的に評価する

03 年度以降 02 年度以前	心理学概説 II 心理学概説（通年）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期（心理学概説 II）では，まず，人格理論について講義をする。つぎに，ストレスについてとりあげ，ストレスによる障害とその対応などを論じ，社会への人々の適応について深く考えていきたい。つぎに，心理学的視点から「現代社会の諸問題」についてさまざまなテーマを取り上げて受講者と共に考えていきたい。 授業の後半では，受講者に特定のテーマについて資料をまとめて発表してもらう予定である。また，発表内容について受講者全員で討論しながら授業を進めていく。発表は受講者全員にしてもらう。発表内容に基づいて評価をおこなう予定でいる。	授業計画は以下のとおり。 1．春学期のまとめと秋学期のガイダンス 2．人格理論①：類型論と特性論 3．人格理論②：性格の構造と形成 4．人格理論③：人格の測定 5．人格理論④：人格の変容 6．人格理論⑤：ストレスと性格 7．現代社会と家族の心理 8．現代社会と情報化の心理 9．現代社会と日本人の精神構造① 10．現代社会と日本人の精神構造② 11．現代社会と自己形成 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは使用しない。必要な資料は配付する。参考文献は授業で紹介する。	授業への出席とレポート，授業への積極的参加度（発表など）により総合的に評価する

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降 02 年度以前	生涯学習概論	担当者	渋谷　英章

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「生涯学習社会」は、現在ではあたりまえの言葉になっているが、ともすれば「学校を終えた人々に十分な学習機会が提供されれば生涯学習社会は完成する」という表面的で一面的な理解にとどまることが多い。この授業では、学校教育と社会教育をともに変革して両者の統合を図ることが、生涯社会の基本的な課題であり、また生涯学習こそが現代社会の課題解決の鍵であるという視点から、生涯学習社会におけるフォーマル教育、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育のあり方とそれらの関係性について追究する。 講義概要 まず、現代において「生涯学習社会」が求められる背景と生涯教育の理念を検討する。そのうえで、生涯学習社会における社会教育および学校教育のあり方を考える。その上で、日本の生涯学習の現状と課題を分析する。	1　生涯学習社会とは 2　生涯にわたる学習機会の多様性と類型化 3　「生涯教育論」と学校 4　ノンフォーマル教育 5　社会教育の定義と社会教育法 6　社会教育の特質 7　ペダゴジーとアンドラゴジー 8　生涯教育から生涯学習へ 9　現代的課題と生涯学習（1） 10　現代的課題と生涯学習（2） 11　学社連携と学社融合（1） 12　学社連携と学社融合（2）

テキスト、参考文献	評価方法
参考文献として、伊藤俊夫／国立教育研究所社会教育実践研究センター編『生涯学習概論』（文憲堂） なお、最新の「社会教育法」（上記文献には収録されている）を各自入手すること。	「生涯学習体験レポート」（必須）と「最終レポート」（必須）をもとに評価する。

03 年度以降 02 年度以前	図書館概論	担当者	山本　順一

講義目的、講義概要	授業計画
デジタル・ネットワーク時代の市民の情報アクセスの拠点、地域文化創造施設である図書館の社会的意義と具体的役割について、一緒に考えることにしたい。日本の図書館政策、図書館行政は、様々な問題と課題を抱えている。諸外国の図書館運営の実態にも言及しつつ、この国と国民にとっての望ましい図書館像について検討を加えることにしたい。	1　はじめに：図書館の意義と役割 2　図書館の歴史的発展 3　図書館の機能と種別 4　図書館協力：図書館コンソーシアムへ 5　21 世紀を迎えての図書館活動 6　図書館情報資料：アナログとデジタル 7　図書館固有の技能と知識 8　図書館情報サービス 9　図書館経営と評価 10　ライブラリアンの職務と人材育成 11　デジタル・ネットワーク時代の図書館利用教育 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
藤野幸雄ほか著『図書館情報学入門』有斐閣　1997 年	原則として、最後の授業時間中における試験の成績による。毎時間行なうクイズの出来、授業中のレスポンスを考慮する。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	図書館サービス論 図書館サービス経営論(通年)	担当者	千葉　治

講義目的、講義概要	授業計画
図書館は、「本との出会い、人との出会い」のひろばであり、図書館サービス(奉仕)機関である。公共図書館の実践に基づき、図書館サービスの意義や方法について解説するとともに、利用対象別サービスやサービスに関わる事柄についても概説する。	1　図書館サービス(奉仕)とは何か。 2　図書館サービス計画を考える。 3　貸出、リクエストサービス 4　相談・援助、情報サービス 5　集会・文化活動 6　子ども・ヤングアダルトサービス 7　高年者・成人サービス 8　図書館利用に障害のある人びとへのサービス 9　多文化サービス 10　図書館サービスと著作権 11　図書館サービスとボランティア 12　まとめ・小テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布 各地の図書館などをビデオで紹介する。	レポート・小テスト・出席状況

03 年度以降 02 年度以前	図書館経営論 図書館サービス経営論(通年)	担当者	井上　靖代

講義目的、講義概要	授業計画
多くの図書館では、人材派遣や契約職員、アルバイト、ボランティアなどの人々が働いている。正職員であったとしても、必ずしも司書有資格者とは限らない。したがって、司書有資格者の主な仕事は資料管理運営から財政管理や人事管理、スタッフ教育、さらに自己継続教育といった内容にシフトしており、そのための戦略的計画や積極的な図書館活動のためのプロモーション、資金獲得のための政治的手腕が求められている。　そのため、企業の経営管理運営理論を参考にして、実際の公共図書館の例をケース・スタディとして学習しながら、現状の把握と問題点、さらにどのような戦略的活動が求められているのかを学ぶ。	1．情報社会と図書館の情報戦略 2．企業の経営理論 3．公的セクターの経営理論 4．図書館法政策と図書館経営の実態 5．地方自治体の図書館政策 6．財政と図書館経営 7．建築、施設・設備－PFI や委託の問題－ 8．人事管理－専門職の役割と委託などの問題－ 9．資料管理 10.　事業計画策定 11.　ネットワーク 12.　海外の図書館経営
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の時間に参考文献リストを配布します。	小課題（１ｐ～３ｐ程度）を提出。また、出席をかねた授業内でのグループ討議などの授業参加度によっても評価します。課題６０％　授業への参加度４０％

03 年度以降 02 年度以前	情報サービス論 a 情報サービス論（通年）	担当者	福田　求

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】本講義での情報サービスとは，図書館の情報提供機能を具体化するサービス全般のことをいうが，これにはレファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス，さらには CD-ROM やオンラインの検索サービス等，さまざまなサービスが含まれる。本講義ではこの情報サービスの総合的な理解を目指す。 【概要】春学期では，図書館の情報サービスについての基本的な事項を解説する。より具体的には授業計画を参照のこと。	1　受講者の確認・決定。年間予定，授業方法等について説明。 2　情報サービスの概要と実際（ビデオ鑑賞等） 3　レファレンスサービス 4　利用案内，レフェラルサービス 5　カレントアウェアネスサービス，検索サービス 6　前半部分のまとめ。質問受付。 7　発展的情報サービス 8　情報サービスで用いる情報源の類別 9　レファレンスコレクションの構築・評価 10　情報サービスにおけるコミュニケーション 11　最新の情報サービス 12　授業全体のまとめ。質問受付。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。

03 年度以降 02 年度以前	情報サービス論 b 情報サービス論（通年）	担当者	松下　鈞

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の情報サービス論 a で学んだことを基本に、 秋学期はリファレンス・トゥール、オンライン・データベース、インタネット検索エンジンを使いこなし、与えられた課題の検索、情報の評価、回答の実習を中心として行う。 この実習を通して、多くのレファレンス・トゥールに触れ、その特徴、構成、内容などに関する知見を深め、検索の達人となることを目指す。 また、情報の提供の仕方の基本にあるコミュニケーション技術を磨く。	１．イントロダクション ２．リファレンス・トゥールの記述形式と種類 ３．インタネット情報源の記述形式と種類 ４～９　課題検索実習 １０．レファレンス・ケースのデータベース化 １１．Ｌｉｂｒａｒｙ　Ｐａｔｈｆｉｎｄｅｒ １２．サブジェクト・リエゾンとネットワーキング
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜プリントを配布する	出席（３０％）、小レポート（３０％）、最終課題（４０％）

03 年度以降 02 年度以前	情報検索演習	担当者	高柳　敏子

講義目的、講義概要	授業計画
はじめに、情報検索ｼｽﾃﾑの一連の流れの蓄積ｻﾌﾞｼｽﾃﾑと検索ｻﾌﾞｼｽﾃﾑを概観する。蓄積ｻﾌﾞｼｽﾃﾑでは、一次資料から二次資料への情報の加工の課程で、情報の入手、主題分析、検索ｷｰの作成、索引、ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽといった処理項目を、また検索ｻﾌﾞｼｽﾃﾑでは、情報要求、検索質問、検索式、ｼｿｰﾗｽの利用、索引との照合、検索結果の評価といった諸項目を順に解説する。 検索式の解説では、ﾌﾞｰﾙ演算子を用いた情報検索の表現方法を、またｼｿｰﾗｽについてはその構成と目的を、さらに実際の検索および結果の評価では、再現率と適合率等について学ぶ。 実践的な情報検索能力を養うために、ｵﾝﾗｲﾝ検索ではｲﾝﾀｰﾈｯﾄ上の各種情報検索ｼｽﾃﾑをできるだけ活用する。CD-ROM を使用したｵﾌﾗｲﾝ検索では練習用の J-BISC による実習を行う。さらに最近のﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ辞典等も扱ってみる。	1 ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ 情報検索とは 2 情報検索(1) 情報検索ｼｽﾃﾑ：蓄積ｻﾌﾞｼｽﾃﾑと検索ｻﾌﾞｼｽﾃﾑ 3 情報検索(2) 検索ｻﾌﾞｼｽﾃﾑと諸項目 4 情報検索(3) 情報検索の理論 5 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(1) ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽと情報検索 6 ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(2) 蓄積ｻﾌﾞｼｽﾃﾑと諸項目 7 ｲﾝﾀｰﾈｯﾄの情報検索(1) 検索ｴﾝｼﾞﾝと諸項目 8 ｲﾝﾀｰﾈｯﾄの情報検索(2) 検索ｴﾝｼﾞﾝの利用 9 図書の検索(1) OPAC 10 図書の検索(2) JBISC 11 商用のﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ利用(1) JOIS のｼｿｰﾗｽとその利用 12 商用のﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ利用(2) JOIS 演習，まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
渡辺、北、澤井、原田共著『情報検索演習』新・図書館学ｼﾘｰｽﾞ-6、樹村房、2004（改訂）	4～5 回程度の実習ﾚﾎﾟｰﾄおよび出席を加味して評価する。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	情報検索演習	担当者	福田　求

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に，コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を，解説および実習を通して体得する。 【概要】本講義ではまず，情報検索に関する基礎的な概念について解説する。そしてその知識を踏まえた上で，実際の情報検索技術に慣れ，習熟するために，WWW の検索エンジンや CD-ROM データベース，商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能なかぎり，受講者が今後の調査／研究活動で利用できるような情報源を紹介する。	1　オリエンテーション。情報検索の概要。 2　データベース 3　索引語，シソーラス 4　情報検索関連作業のプロセス 5　検索式 6　前半部分のまとめ。質問受付。 7　検索結果の評価 8　WWW の検索エンジン(1) 9　WWW の検索エンジン(2) 10　CD-ROM 検索 11　商用オンラインデータベースの検索 12　授業のまとめ。質問受付。

テキスト、参考文献	評価方法
適宜指示する。	期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降 02 年度以前	図書館資料論	担当者	山本　順一

講義目的、講義概要	授業計画
伝統的な紙媒体資料、視聴覚資料にとどまらず、デジタルコンテンツをも含め、図書館が取扱い、利用者に提供する情報資料全般の種別とそれぞれの特性について論じ、その出版発行、流通、選択とそのトゥール、保存管理、アーカイビング等についても解説する。ライブラリアンの視点だけでなく、図書館利用者の便益に考慮しつつ、一緒に考えることにしたい。	1　図書館資料の意義、種類と特性 2　図書館資料論の歴史 3　資料選択に関する諸理論 4　コミュニティ特性と情報資料ニーズ 5　情報資料の収集方針、インターネット・ポリシー 6　情報資料とコレクション、図書館ポータルの評価 7　情報資料の選択とアクセサビリティ 8　情報資料の管理とアクセス 9　情報資料の分担収集・分担保存、分散管理 10　アナログとデジタルの出版流通 11　情報資料の収集・提供のメカニズム 12　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
河井弘志編著『図書館資料論』東京書籍　1998 年	原則として、最後の授業時間中における試験の成績による。毎時間行なうクイズの出来、授業中のレスポンスを考慮する。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	専門資料論	担当者	松下　鈞

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 90 年代の「滞在型図書館」に加えて 2000 年代は生涯学習支援やさまざまな専門主題の情報提供サービスを積極的に行なう「発信型図書館」へのニーズが強まると予測される。そこでは主題情報専門家（サブジェクト・リエゾン）の重要性が増すであろう。 「専門資料論」では、さまざまな主題分野における特有な専門資料の種類、記述様式、内容などを知り、それらを実際に使いこなせることを目標としたい。 （概要） この授業では主として人文科学、社会科学のさまざまな分野における多様な資料の種類とその記述形式や内容を知り、利用法について学ぶ。また、学生ひとりひとりが学ぶ専門領域に特有な専門資料を精査する。さらに専門領域における学術的インタネット情報資源についても調査し、ゼミテーマや卒業論文に関係する情報源を選別する。	１．イントロダクション ２．専門資料の定義と構造及び種類 ３．学術情報の連環と情報へのアクセス行動 ４．人文科学における資料特性と情報 ５．人文科学の諸分野の専門資料 ６．社会科学における資料特性と情報 ７．社会科学の諸分野の専門資料 ８．自然科学における資料特性と情報 ９．自然科学の諸分野の専門資料 １０．芸術分野における資料特性と情報 １１．芸術分野の諸分野の専門資料 １２．専門分野におけるサブジェクト・リエゾンの需要
テキスト、参考文献	**評価方法**
「新訂 専門資料論」（東京書籍、２００４） 適宜プリントを配布する。	出席（３０%）、小レポート（３０%）、最終課題（４０%）

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	資料組織概説	担当者	松下　鈞

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 図書館が扱う情報資料（図書、雑誌、視聴覚資料、電子資料、インタネット情報資源等）の内容や主題を文字情報や記号によって代替する理論と技術を学ぶ。 （概要） 図書館が扱う媒体に記録されている情報や資料を一定の基準でデータ化する方法を学ぶ。 物理的実体のある情報媒体にアクセスする手がかりである「記述目録法」や「主題目録法」に関する理論と技術を学ぶ。さらに物理的実体の無いインタネット情報資源の記録法についても触れる。 以上について、伝統的な理論と技術とともに情報が電子化されインタネットが拓いたグローバルな情報世界における情報の記録化の国際的動向についても学ぶ。	１．イントロダクション ２．OPAC（オンライン公開目録）による資料検索とインタネットによる情報検索 ３．NCR（日本目録規則）による書誌情報の記録化 ４．NCR による書誌情報へのアクセス ５．NCR の限界と対応（書誌階層、書誌コントロール） ６．NDC（日本十進分類法）による主題分析と主題目録 ７．NDC と主題からのアクセス ８．BSH（基本件名標目表）による主題からのアクセス ９．資料組織化と書誌ユーティリティ １０．　インタネット情報資源の組織化の動向 １１．　情報資料組織化の国際動向 １２．　情報電子化時代の資料組織
テキスト、参考文献	**評価方法**
「資料組織概説　新訂版」（日本図書館協会） その他、適宜プリントを配付する。	出席（２０%）、専門用語テスト（１０%）、小レポート（４０%）、最終レポート（３０%）により評価する。

03 年度以降 02 年度以前	資料組織演習	担当者	松下　鈞

講義目的、講義概要	授業計画
（目的） 「資料組織概説」を履修したものを対象として、NCR（日本目録規則）による記述目録法、NDC(日本十進分類表)による主題分析と主題目録の作成、BSH（基本件名標目表）による主題目録の作成を実習する。また、NII（国立情報学研究所）のメタデータ記述要素とダブリンコアを用いてインタネット情報資源を記録化する方法を実習し、理解を深める。 （概要） NCR、NDC、BSH、メタデータ記述法等を用いた情報の記録化を実習し、情報資料の組織化に関する基礎技術の習得を目指す。 また、それぞれのゼミ研究テーマに沿って検索収集した情報をさまざまな手法で記録化する。 （注意） 用語テスト、小レポートなど課題レポートを必ず提出すること。	１．イントロダクション ２．記述目録法概説 ３．記述目録法 ４．記述目録法 ５．主題目録法（NDC） ６．主題目録法（NDC２） ７．件名目録（BSH） ８．件名目録（BSH2） ９．メタデータ記述法 １０．　メタデータ記述法２ １１．　Library Pathfinder １２．　Library Pathfinder2
テキスト、参考文献	**評価方法**
NCR、NDC、BSH 等のトゥールは用意する。 適宜プリントを配付する。	出席（４０%）、用語テスト・小レポート（３０%）、最終課題（３０%）

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降 02 年度以前	児童サービス論	担当者	井上　靖代

講義目的、講義概要	授業計画
この科目ではおおむね年齢別利用対象者別におこなわれている公共図書館活動について、現状を把握し、将来的な戦略計画を策定可能になることを目的とする。 読書しないといわれる子どもやヤングアダルトと称せられる 10 代の図書館利用者（潜在的利用者）に対する戦略的で効果をあげうるべき図書館プログラムを企画・実施し、評価に耐えうる内容を考えられる専門職としての児童・YA 担当司書を養成することを目的とする。 司書に求められる資料知識として、０歳～２０歳までの年齢者層を対象として出版されたあらゆる資料メディアに熟知し、それらを利用対象者集団にいかに効果的に戦略的にプロモートしていけるかが第一段階である。したがって、この利用対象者集団向けの資料をできるだけ実際に読み・聴き・観て、さらに専門職として批判できるかがポイントとなる。そのうえで、いかに図書館プログラムとして企画し、財政的行政的支援を受け、実施していけるかが大きな「司書力」となる。その実践にむけ、試案作成を受講者に求める。 講義開始までにできるだけ多くの図書館メディア資料を読み・聴き・観ておくことが求められる。できるだけ子ども向けの多くの児童書や DVD などを知っておいてください。	１．はじめに。図書館における児童・YA サービスとは何か？ ２．地域社会における「子ども」のイメージは何か？ ３．幼児サービス ４．小学校など児童対象の図書館サービス ５．中学校や高校など１０代のヤングアダルト対象の図書館サービス ６．児童・YA 図書館活動の歴史 ７．子どもをとりまく大人への図書館活動 ８．アウトリーチ・サービスと子どもたちの知的自由について ９．図書館活動をめぐる諸問題－法律と政策、インターネットなど－ 10. 実際の図書館活動推進のための企画・立案、年間計画策定など 10. 児童や YA 向けの図書館建築における設備など 11. 児童・YA 図書館活動における現状と将来 12. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
最初の時間に参考文献リストを渡しますが、できるだけ多くの絵本・児童書やそれらをもとにした映画などを読んだり観ておくなどしておいてください。	課題（８０％）＋授業参加（２０％）

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降 02 年度以前	図書及び図書館史	担当者	井上　靖代

講義目的、講義概要	授業計画
大きくわけて３つの分野について講義する。 まず、図書館資料の歴史、特に「本」の歴史と社会文化史との関わりについて講義する。特にヨーロッパ文化史の流れのなかで、「本」が果たした役割について述べる。紙など書写材料と「本」に記述され伝達される内容の変遷をコミュニケーション史の面から分析して講義する。また、この流れのなかで成立した近代的な図書館の発達史についても講義する。高校で世界史を学んでいない受講者は講義開始までにヨーロッパ史の概略について自己学習しておくこと。『図説世界史』（東京書籍刊）などがわかりやすい。ほかにも世界史について概略している本を１冊読んでおくと授業内容がわかりやすいだろう。 つぎに、現代的な公共図書館発達の歴史を世界ではじめて税金で運営しはじめたアメリカでの例を中心として学ぶ。 最後に日本での図書館発達史を特に明治以降の時期を中心として講義する。高校のときに日本史、特に明治以降の日本史について学習していない受講者は講義開始までに、近代日本史について１冊本を読んでおくこと。 そのほか、「印刷博物館」や「紙の博物館」を各自見学しておくと、この授業が理解しやすいだろう。	１．図書館の「本」とは何か。多様な書写材料と図書館 ２．図書館の歴史－図書館建築の歴史、文房具の歴史、書架の歴史、分類・目録の歴史、図書館員の歴史など－ ３．アレクサンドリア図書館からヨーロッパ中世の図書館－「薔薇の名前」の世界－ ※映画「薔薇の名前」を観ておいてください ４．産業革命と市民社会、近代公共図書館 ５．アメリカでの図書館－学校図書館から公共図書館へ－ ６．公共図書館の誕生 ７．戦争と図書館 ８．日本での図書館前夜 ９．日本の図書館誕生－明治・大正・昭和前期－ １０．現代日本市民社会の図書館 １１．情報流通と図書館の歴史 １２．図書館の未来 ※映画「華氏４５１度」を観ておいてください

テキスト、参考文献	評価方法
『図書及び図書館史』（日本図書館協会刊）を参考文献としてあげておくが、最初の時間にさらに詳しい文献リストを配布する。	課題（小レポート２回　2×30=60%）と出席（40%）で評価します。

03 年度以降 02 年度以前	資料特論	担当者	千葉　治

講義目的、講義概要	授業計画
図書館は、「本との出会い、人との出会い」のひろばであり、多様な資料・情報が集積され利用される。公共図書館の実践に基づき、郷土資料・行政資料・視聴覚資料などの各資料の特質を論じ、その収集・利用等について解説する。	1　図書館資料の種類 2　新聞・雑誌 3　郷土資料 4　自作郷土資料 5　行政資料・観光パンフレット 6　視聴覚資料 7　自作視聴覚資料・絵画・写真 8　地図・電話帳・図録・楽譜 9　子どものための資料・大型紙芝居等 10　図書館利用に障害のある人のための資料・多文化サービス 11　県立図書館・国立国会図書館の資料 12　まとめ・小テスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布 各地の図書館などをビデオで紹介する。	レポート・小テスト・出席状況

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	コミュニケーション論	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
学習目標 :「コミュニケーション」に関する基本的な用語・概念を理解し、各自のコミュニケーション・リテラシー（造語である）の向上を図る。 概要 : コミュニケーションと社会、日常生活と言語・非言語行動、異文化間コミュニケーション、自己発見プロセスなど。講義が主体であるが、受講生の数によって授業の展開を変更することがある。 ※詳細は開講時に明示する。	①　プロローグ ②　コミュニケーションとは ③　同上 ④　異文化間コミュニケーション ⑤　同上 ⑥　言語行動 ⑦　同上 ⑧　非言語行動 ⑨　同上 ⑩　自己発見プログラム ⑪　同上 ⑫　エピローグ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを使用する。	出席、個人レポート、グループレポート、定期試験など

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降 02 年度以前	図書館特論	担当者	千葉　治

講義目的、講義概要	授業計画
図書館は、「本との出会い、人との出会い」のひろばであり、「図書館は成長する有機体である」(ランガナタン著『図書館学の五法則』)ともいわれる。公共図書館の実践に基づき、「土地の事情及び一般公衆の希望にそい」(図書館法第三条)の視点で、図書館における今日的な課題について取り上げ解説する。	1　日本の図書館概観 2　図書館と戦争責任の問題 3　職場の話し合いと仕事の改善 4　文庫活動 5　図書館の集会機能 6　本のあるひろばめぐり 7　図書館活動への住民参加 8　複合問題 9　委託問題 10　コミュニケーションを大切に 11　図書館評価 12　まとめ・小テスト

テキスト、参考文献	評価方法
プリント配布 各地の図書館などをビデオで紹介する。	レポート・小テスト・出席状況

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降 02 年度以前	学校経営と学校図書館	担当者	井上　靖代

講義目的、講義概要	授業計画
本科目は学校図書館司書教諭免許取得のための必修科目のなかでは概論にあたる。学校図書館とは何か、学校図書館司書教諭とはどのような仕事をするのか、などを講義していく。館種をとわず、図書館（図書館情報館、情報資料センターなど）の役割を考える際には、大きく４つの点を配慮する。さらに学校図書館では機能面から、教育・学習センター、資料センター、情報センター、教材開発センター、マルチメディア（含む視聴覚資料）センターなどとしての機能が求められる。これらの役割と機能を整理して理解しすることを目的とする。また、学校図書館司書教諭は学校図書館長として、資料管理や人事管理など経営者としての役割と仕事が求められる。学校図書館を活用し、総合的な学習など創造的な授業を構築する教員集団の援助活動も求められている。この科目では、これらの役割について、内容を把握し、その使命を認識し教育現場で実施できるようになることを目的としている。 講義が中心となるが、積極的な授業参加を求めたい。	１．イントロダクション ２．図書館の役割 ３．学校図書館の機能 ４．学校図書館司書と学校図書館司書教諭 ５．施設・設備と授業での活用 ６．資料管理と活用－授業での利用、読書支援、生活情報獲得支援など－ ７．学校図書館利用のプログラムの実際 ８．学校図書館運営計画－予算・決算、学内行政、人事管理など－ ９．学校図書館をめぐる法政策 10. 教員への授業支援 11. PTA や学校ボランティア、地域社会、教育委員会、公立図書館などとの協同活動 12. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
最初の時間に参考文献リストを配布する。授業前に大学図書館内視聴覚コレクションに学校図書館についてのビデオがあるので、視聴しておくと授業が理解しやすいだろう。	小課題 20%、試験 40%、出席（授業参加）40%

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03 年度以降 02 年度以前	学校図書館メディアの構成	担当者	井上　靖代

講義目的、講義概要	授業計画
この科目では、学校図書館メディア・センターでの資料管理について講義・実習する。 (1)　資料選択。 どのような資料が授業で活用できるのか、どのような資料がどの年齢層あるいはどのような興味関心を持っている子どもに薦められるのか、などについて選択理論をおさえ、専門職としての資料選択力を身につけることを目的とする。 (2)　資料組織化の実習。 学校図書館メディア・センターにはどのような資料を所蔵するのか、それをどのように分類・目録化し、データベース化するのかの基本を学び、実習する。 この科目では実習部分が大きい。必ず出席すること。遅刻は厳禁である。毎年欠席や遅刻のために単位を取得できない学生が 1／3いることを警告しておく。時間的限界があり基本部分しかこなせないだろうが、各自、将来「教師」をめざす学生として最低限の教養を最大限に活用する必要がある。授業までにできるだけ自分なりの幅広い教養（雑学でもよい）を身につけておくこと。図書のタイトルだけで内容が類推できる程度の教養は必須である。	1．イントロダクション。学校図書館メディア資料の種類と特性 2．資料選択理論。子どもたちの知的自由と学校図書館の使命 3．資料選択の実際。 4．分類－日本十進分類法（NDC）－の構造 5．分類の実際(1)図書・雑誌・新聞 6．分類の実際(2)メディア資料・クリッピング資料 7．目録－日本目録規則（NCR）－の構造 8．目録化の実際(1)図書 9．目録化の実際(2)クリッピング資料の整理 10.　目録化の実際(3)データベース化 11.　目録検索 12.　まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
最初の時間の参考文献リストを配布する。なお、実習のためのツールとして『日本目録規則 1987 年改訂２版』『日本十進分類法第９版』を使用する。	毎回、課題を提出してもらう。それによって授業参加とみなす。60%　最終課題 40%

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	学習指導と学校図書館	担当者	井上　靖代

講義目的、講義概要	授業計画
教科指導のなかで、あるいは「総合的な学習」で学校図書館と図書館資料、情報メディアを活用してどのような指導が行えるか、指導教案作成をおこなう。さらに、児童・生徒たちに調べてもらうために、教師自身が情報探索能力をみにつけておくことが求められるので、情報探索活動能力（情報リテラシー）養成を目標とする。 学習指導における学校図書館のメディアの活用についての理解を図る。また、学習指導要領の改訂による「総合的な学習」で、学校図書館の活用が明記されており、その内容にそって、児童・生徒たちの主体的なメディア活用能力の育成を目的とした授業成立を援助する学校図書館司書教諭の役割を理解し、実践する講義内容とする。	1．教育課題と学校図書館 2．発達段階に応じた学校図書館メディアの選択 3．学校図書館情報メディア活用能力の育成 4．学習過程における学校図書館メディア活用の実際 5．学習指導過程における学校図書館メディア・センターの利用－学校図書館メディア・センター利用のための教案作成（「総合的な学習」科目での教案）－ 6．学習指導過程における学校図書館メディア・センターの利用－学校図書館メディア・センター利用のための教案作成（各教科での教案）－ 7．学校図書館メディア・センター管理運営年間計画策定 8．授業指導の実施（実習・発表） 9．情報探索能力育成－印刷媒体とインターネット－ 10．情報探索能力育成（実習） 11．教師集団との連携 12．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の時間の参考文献リストを配布します。	課題（４×１０＝４０％）と出席（４０％）発表（２０％）すべて課題を期限内に提出した場合に評価対象とします。

03 年度以降 02 年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画
テキスト、参考文献	**評価方法**

03 年度以降 02 年度以前	読書と豊かな人間性	担当者	井上　靖代

講義目的、講義概要	授業計画
読む・書くという意味での読書をいかに子どもたちに楽しみながら、自分の言葉で自分自身を表現できるようにするかを実際に子どもの本を読みながら、授業として構築していく。講義と実習を組み合わせて実施する。 この科目の目標は、各受講者がリーディング（読む）とリテラシー（書く）という読書力養成を目的とする授業を構築し、学習者に教授できるようになることにある。授業案が作成できるようになることを第一段階とする。	1.イントロダクション。子どもの読書とは何か？子どもは本を読まなくなったといわれるが、本当だろうか？ 2.読む・書くという識字力・読書力について考える。 3.子どもの発達心理・読書心理、読書傾向、知的好奇心と社会との関わりなどについて考える。 4.子ども向け読書資料について実際に読み、どのように伝えるかを考える。 5.子どもの読書傾向や読書心理、言語学習、コミュニケーション学習などに関連して、実際に学校図書館現場で実施されている読書プログラム（ブックトークやアサドクなど）について検討する。 6.読者育成のための教案作成。 7.「読みて」から「書きて」を育成するための教案作成。 8.家庭での読書を考える。 9.地域社会や公立図書館との連携による読書振興。 10.子どもの読書と知的自由、検閲や焚書など。 11.子どもの読書をめぐる法律や政策 12.まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の時間に参考文献リストを配布しますが、授業開始までにできるだけ多くの子どもの本（絵本からヤングアダルト向け（ライトノベルなど））を読んでおいてください。	課題(4×15)=60%　出席を含む授業参加　40%

03年度以降 02年度以前	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊	担当者	＊＊＊＊＊

講義目的、講義概要	授業計画

テキスト、参考文献	評価方法

03年度以降 02年度以前	情報メディアの活用	担当者	小畑　信夫

講義目的、講義概要	授業計画
情報社会に生きる児童・生徒が、多様なメディアから必要な情報を収集選択し、生活・ビジネスに活用できる情報活用能力の育成を、学校図書館と学習指導の面から解説する。CD-ROM、電子ブックなどの電子メディア、インターネットを通じて、データベースの活用について実際の活用例を示し、児童・生徒の学習活動のあり方を考察する。画像情報・音声情報を使ったハイパーメディアの活用、文字・画像・音声情報に関わる情報化時代の著作権についても触れる。 　主に次の各項について、講義と演習で学び、さまざまな形態で存在する情報メディアそれぞれの、特性・特徴、取り扱い上の注意などについて理解し、活用方法を認識する。 　講義で得たメディアの特性・特色などを、学校教育に有用な資料・情報として役立たせるための準備、およびその実際について学習する。	第1回 高度情報社会と人間 第2回 メディアの歴史 第3回 インターネットと検索技術（1） 第4回 インターネットと検索技術（2） 第5回　半導体とコンピュータの仕組み 第6回ディスク系の電子メディアの利用 第7回メディアの種類と情報の性質 第8回 情報媒体の取り扱い 第9回 情報メディアと著作権 第10回 情報社会の光と影（1） 第11回 情報社会の光と影（2） 第12回 試験

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト／『情報メディアの意義と活用』大串夏身編著・樹村房　参考文献／『子どもが生きる学校図書館』熱海則夫・長倉美恵子編著ぎょうせいい	試験と出席日数、レポートなどで総合的に評価する。

シラバス 免許課程

2006年 4 月 1 日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1
電　話　048-946-1663

※この冊子は、再生紙を使用しています。

DOKKYO UNIVERSITY